

Cisco IP Phone 7970 シリーズ for Cisco CallManager 4.1(3)

ライセンスおよび保証



電話機の一般的なタスク

目的	操作
履歴を表示する	 を押して、履歴を選択します。ダイヤルするには、リストまでスクロールして選択し、オフフックにします。
履歴に表示された番号を編集する	[編集] を押します。数値を消去またはスキップするには、<< または >> を使用します。
社内ディレクトリからダイヤルする	 > [社内ディレクトリ] を選択します。文字を入力し、 [検索] を押します。ダイヤルするには、オフフックにします。
コールがアクティブな状態で新しいコールを発信またはコールに応答する	[発信] または [応答] を押します。最初のコールが自動的に保留状態になります。
コールを保留および復帰する	[保留] または [復帰] ソフトキーを押します。
新しい番号へコールを転送する	[転送] を押し、番号を入力してから、切断します(電話機がオンフック転送をサポートしていない場合は、もう一度 [転送] を押します)。
同じ回線上で2つのコールを相互に転送する	各コールまでスクロールし、 [選択] を押します。次に、 [次へ] > [D転送] を押します。または、発信者との通信を継続する場合は、 [参加] を押します。
標準の会議コールを開催する	[次へ] > [会議] を押し、参加者にダイヤルします。次に、もう一度 [会議] を押します。



Cisco, Cisco IOS, Cisco Systems、および Cisco Systems のロゴは、米国および一部の国における Cisco Systems, Inc. とその関連会社の登録商標です。このマニュアルまたは Web サイトで言及されているその他の商標はすべて、それぞれの所有者のもので、「パートナー」という語の使用は、シスコと他社の提携関係を意味するものではありません。(0501R)

Copyright © 2005 Cisco Systems, Inc.
All rights reserved.

OL-7791-01-J



Cisco IP Phone 7970 シリーズ

ソフトキーの定義
アイコン リファレンス
ボタン アイコンの定義
電話機の一般的なタスク

ソフトキーの定義

短縮	短縮ダイヤルのインデックス番号を使用してダイヤルする
応答	コールに応答する
戻る	前のヘルプ項目に戻る
割り込み	共有回線のコールに参加する
折り返し	話し中の内線が対応可能になったときに通知を受信する
キャンセル	変更を適用せずに操作をキャンセルまたは画面を終了する
C 割込	共有回線のコールに参加し、会議コールを開催する
不在	コール転送を設定またはキャンセルする
クリア	レコードまたは設定を削除する
トジル	現在のウィンドウを閉じる
参加者	会議の参加者を表示する
会議	会議コールを発信する
削除	[編集] の使用時にカーソルの右側にある文字を削除する
ダイヤル	入力された電話番号をダイヤルする
D 転送	2つのコールを相互に転送する
編集	履歴に表示された番号を編集する
終了	現在のコールを切断する
削除	設定をデフォルトにリセットする
終了	前の画面に戻る
G ピック	別のグループで鳴っているコールに応答する
即転送	ボイス メッセージ システムにコールを送信する
参加	1 本の回線上の複数のコールに参加し、会議コールを発信する
リンク	関連するヘルプ項目にアクセスする

メイン	ヘルプのメインメニューを表示する
ミーティング	ミーティング会議コールを開催する
次へ	その他のソフトキーを表示する
発信	新しいコールをかける
他 Grp	自分のグループに関連付けられた別のグループで鳴っているコールに応答する
パーク	コールパークを使用してコールを保存する
ピックアップ	自分のグループでコールに応答する
非通知	他人が共有回線のコールを表示したり、コールに割り込みしたりできないようにする
品質	コールに関する問題をシステム管理者へ送信する
リダイヤル	最後にダイヤルした電話番号にリダイヤルする
削除	会議の参加者を削除する
復帰	保留状態のコールを復帰する
ドロップ	会議コールに最後に追加された参加者を削除する
保存	選択した設定を保存する
検索	ディレクトリリストを検索する
選択	画面上の項目を選択する
転送	コールを転送する
更新	内容を更新して最新情報を取得する
ビデオ	ビデオ会議用にビデオ表示モードを選択する
<<	入力した文字を削除する
>>	入力した文字の先に移動する

アイコン リファレンス

コールの状態	
	コール転送が有効
	コールの保留
	接続コール
	オフフック
	オンフック
	着信コール
	共有回線を使用中
安全なコール	
	認証されたコール
	安全なコール
選択された入力デバイス	
	ハンドセットを使用中
	ヘッドセットを使用中
	スピーカフォンを使用中
重要なコール	
	プライオリティ コール
	中程度のプライオリティのコール

	プライオリティが高いコール
	プライオリティが最も高いコール
その他の機能	
	短縮ダイヤル ボタンが設定済み
	メッセージ受信
	ビデオが有効
	オプションが有効
	機能が有効

ボタン アイコンの定義

	メッセージ
	サービス
	ヘルプ
	ディレクトリ
	設定
	スピーカ
	ミュート
	ヘッドセット



Contents

はじめに	1
このガイドの使用方法	1
タッチスクリーン ディスプレイの使用とクリーニング	2
その他の情報の入手先	3
Web 上での電話機のカスタマイズに関する詳細情報	3
安全および使用における情報	4
電話機の接続	7
電話機の概要	10
ボタンとハードウェア	10
タッチスクリーンの機能	14
コール処理とナビゲーションのヒント	15
回線とコールの違いについて	15
コールおよび回線のアイコンについて	15
オンフックとオフフック	16
コールの選択	17
コールの表示と切り替え	17
タッチスクリーンの項目の選択	18
機能メニューの使用	19
テキストの入力と編集	19
電話機に関するヘルプの表示	20
機能の操作性とアベイラビリティについて	20

基本的なコール処理	21
コールの発信	21
コールへの応答	26
コールの終了	27
コールの保留と復帰	28
ミュートの使用	28
接続コールの転送	29
別の電話番号へのコール転送	30
会議コールの使用方法	31
サポートされる会議コールのタイプ	31
標準の会議の開催と参加	32
ミーティング会議コールの開催または参加	33
応用的なコール処理	35
パークされているコールの保存と取得	35
自分の電話機でリダイレクトされたコールに应答する	36
共有回線の使用	37
共有回線について	37
共有回線のコールへの参加	38
他人による共有回線のコールの表示および参加の防止	39
不審なコールのトレース	40
安全なコールの送受信	41
重要なコールの優先順位付け	42
ハンドセット、ヘッドセット、およびスピーカフォンの使用方法	44
ヘッドセットの購入	45
ヘッドセットまたはスピーカフォン使用時の自動应答	45
電話機の設定のカスタマイズ	46
音量の調節	46

呼出音およびメッセージ インジケータのカスタマイズ	47
タッチスクリーンのカスタマイズ	48
短縮ダイヤル機能の設定	49
ボイス メッセージ、履歴、およびディレクトリの使用	51
ボイス メッセージへのアクセス	51
履歴およびディレクトリの使用	52
ユーザ オプション Web ページへのアクセス	54
ユーザ オプション Web ページへのログイン	55
電話機サービスへの登録	56
その他の設定オプションについて	57
電話機のトラブルシューティング	59
Quality Reporting Tool の使用	60
シスコ製品（ハードウェア）に関する 1 年間の限定保証規定	61
索引	



はじめに

このガイドの使用方法

このガイドでは、電話機で使用可能な機能の概要について説明しています。電話機の機能について確実に理解するには、このガイドをよく読んでください。次の表に、よく使用される項目を示します。

目的	操作
電話機について調べる	ヘルプが必要な場合は、  を押してください。
タッチスクリーンをクリーニングする	P. 2 の「タッチスクリーン ディスプレイの使用とクリーニング」を参照してください。
安全情報を参照する	P. 4 の「安全および使用における情報」を参照してください。
電話機を接続する	P. 7 の「電話機の接続」を参照してください。
設置後に電話機を使用する	P. 10 の「電話機の概要」を参照してください。
ボタン ライトの意味を調べる	P. 10 の「ボタンとハードウェア」を参照してください。
タッチスクリーンについて調べる	P. 14 の「タッチスクリーンの機能」を参照してください。
コールを発信する	P. 21 の「コールの発信」を参照してください。
コールを保留にする	P. 21 の「コールの発信」を参照してください。
ミュートにする	P. 28 の「ミュートの使用」を参照してください。
コールを転送する	P. 29 の「接続コールの転送」を参照してください。
会議コールを発信する	P. 31 の「会議コールの使用」を参照してください。
電話番号を共有する	P. 37 の「共有回線の使用」を参照してください。
電話機をスピーカフォンとして使用する	P. 44 の「ハンドセット、ヘッドセット、およびスピーカフォンの使用方法」を参照してください。
音量レベルまたは呼出音を変更する	P. 46 の「電話機の設定のカスタマイズ」を参照してください。
短縮ダイヤルを設定する	P. 49 の「短縮ダイヤル機能の設定」を参照してください。
不在履歴を表示する	P. 52 の「履歴およびディレクトリの使用」を参照してください。

タッチスクリーン ディスプレイの使用とクリーニング

Cisco IP Phone 7970G には、高解像色のタッチスクリーン ディスプレイが備わっています。タッチスクリーンの保護および保守に関するベスト プラクティスにおける推奨事項については、次の表を参照してください。

目的	操作
タッチスクリーンの項目を選択する	タッチスクリーンの項目を指で押すか軽くたたきます。デバイスや道具でタッチスクリーンを押さないでください。電話機のタッチスクリーンは、指で押すように設計されているため、道具を使用すると画面に傷がつくおそれがあります。
タッチスクリーンを無効にする	ディスプレイボタンを 1 秒以上押します。ディスプレイボタンが緑色に点灯して、スクリーンに「タッチスクリーンが無効です」メッセージが表示されます。タッチスクリーンは、すぐに有効にしない限り、約 1 分間無効になります。
タッチスクリーンを有効にする	ディスプレイボタンを 1 秒以上押します。ディスプレイボタンの点灯がとまり、スクリーンに「タッチスクリーンを使う」メッセージが表示されます。
タッチスクリーンをクリーニングする	タッチスクリーンを無効にしてから、クリーニングしてください。タッチスクリーンを無効にしたら、柔らかく乾いた布を使ってタッチスクリーンを拭いてください。液体や粉末を電話機につけないでください。柔らかく乾いた布以外のものを使用すると、電話機の部品が痛み、故障の原因となる可能性があります。
タッチスクリーンを明るくする	朝、またはシステム管理者によって決められた非アクティブ時間の後、最初に電話機を使用するとき、タッチスクリーンのバックライトが無効になっている場合があります。これは、コンピュータのスクリーンセーバーと同じ、スリープ モードです。タッチスクリーンを明るくする、または有効にするには、任意のボタンまたはタッチスクリーンを押すか、ハンドセットを持ち上げてください。

その他の情報の入手先

WWW 上の次の URL から、Cisco IP Phone の最新資料を入手することができます。

http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_ipphon/index.htm

シスコの Web サイトには、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/>

また、シスコの Web サイトの各国語版へは、次の URL からアクセスできます。

http://www.cisco.com/public/countries_languages.shtml

Web 上での電話機のカスタマイズに関する詳細情報

Cisco IP Phone は、社内の他のネットワーク デバイス（コンピュータを含む）と情報を共有できるネットワーク デバイスです。Cisco CallManager の [ユーザ オプション] Web ページを使用すると、コンピュータで電話機サービスの設定およびカスタマイズと、電話機の機能および設定の制御を行うことができます。このガイドでは、これらの機能の概要について説明します。詳細な手順については、『*Web での Cisco IP Phone のカスタマイズ*』を参照してください。このガイドは次の URL で入手できます。

http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_ipphon/index.htm

安全および使用における情報

電話機の設置および使用

次の安全上の注意事項をお読みになってから、Cisco IP Phone の設置と使用を始めてください。



警告

安全上の重要な注意事項

「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。装置の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止策をとるよう努めてください。

これらの注意事項を保管しておいてください。



警告

必ず、取り付け手順を読んでから、システムを電源に接続してください。



警告

この製品を廃棄処分する際には、日本国の法律および地方自治体の条例または規則に従ってください。



警告

雷の発生中は、システムでの作業、またはケーブルの接続や取り外しを行わないでください。



警告

感電事故を防ぐために、安全超低電圧 (SELV) 回路を電話網電圧 (TNV) 回路に接続しないでください。LAN ポートには SELV 回路があり、WAN ポートには TNV 回路があります。一部の LAN ポートと WAN ポートはいずれも、RJ-45 コネクタを使用しています。ケーブルを接続する場合には、注意してください。



注意

インライン電力回路は、通信ケーブルを介して電流を供給します。シスコが提供するケーブルまたは 24 AWG 以上の通信ケーブルを使用してください。



警告

電源装置は屋内に設置する必要があります。

外付け電源装置の使用

次の警告は、Cisco IP Phone を外付け電源装置と使用する場合に適用されます。



警告

この製品は、設置する建物に短絡（過電流）保護機構が敷設されていることが前提になっています。各相導体（すべての通電導体）に 120 VAC、15A（日本および米国）または 240 VAC、10A（前記以外の国）以下のヒューズ、または回路ブレーカーが使用されていることを確認してください。



警告

この装置は、TN 電源システムを使用して動作するように設計されています。



警告

プラグとソケットは常に手を伸ばして利用できる状態にしておく必要があります。これは、プラグとソケットが主要な切断装置であるためです。



注意

この製品では、シスコが指定する電源装置だけを使用してください。

Cisco IP Phone での外部デバイスの使用

次の情報は、Cisco IP Phone で外部デバイスを使用する場合に適用されます。

シスコでは、不要な Radio Frequency (RF; 無線周波数) および Audio Frequency (AF; 可聴周波数) がシールドされた高品質の外部デバイス (スピーカ、マイクロフォン、およびヘッドセット) の使用を推奨しています。

これらのデバイスの品質や、携帯電話および双方向ラジオなど他のデバイスとの間隔によっては、雑音が入ることもあります。その場合は、次のいずれかの方法で対処してください。

- RF または AF の信号源から外部デバイスを離す。
- RF または AF の信号源から外部デバイスのケーブルの経路を離す。
- 外部デバイス用にシールドされたケーブルを使用するか、シールドおよびコネクタが高品質のケーブルを使用する。
- 外部デバイスのケーブルを短くする。
- 外部デバイスのケーブルに、フェライトまたは同様のデバイスを適用する。

シスコでは、外部デバイス、ケーブル、コネクタの品質については制御できないため、システムパフォーマンスを保証することはできません。良品質のケーブルおよびコネクタを使用して適切なデバイスを接続すると、十分なシステムパフォーマンスを得られます。

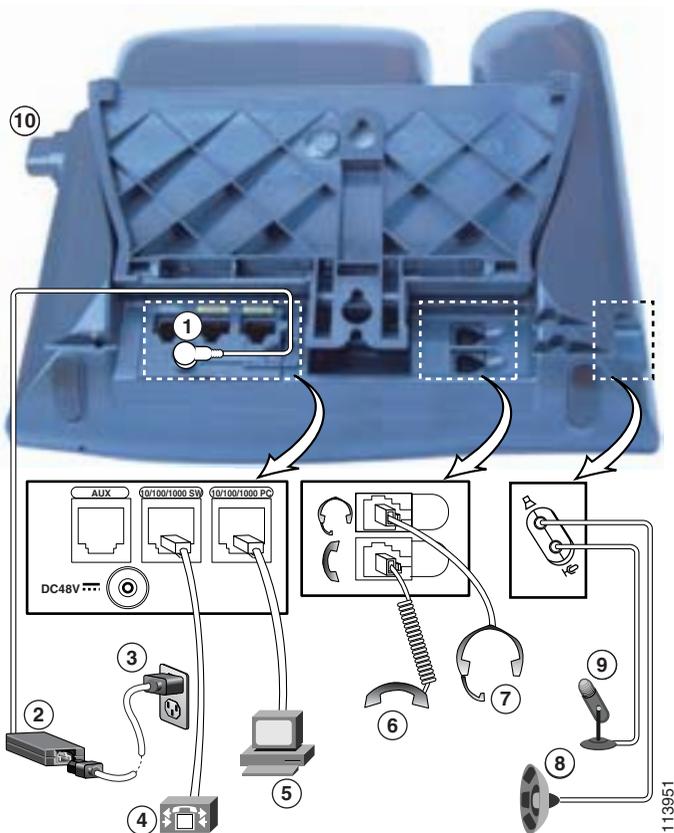


注意

欧州連合諸国では、EMC Directive [89/336/EC] に完全に準拠した外部スピーカ、マイクロフォン、ヘッドセットだけを使用してください。

電話機の接続

通常は、システム管理者が新しい Cisco IP Phone を企業 IP テレフォニー ネットワークに接続します。それ以外の場合は、次の図および表を参照して、電話機を接続してください。



1	DC アダプタ ポート (DC48V)	6	ヘッドセット ポート
2	電話機用 DC コネクタ付きの電源装置	7	ヘッドセット ポート
3	壁面ソケット プラグ付きの AC 電源ケーブル	8	外部スピーカ ポート
4	ネットワーク ポート (10/100/1000 ¹ SW)	9	外部マイクロフォン ポート
5	アクセス ポート (10/100/1000 ¹ PC)	10	フットスタンドボタン

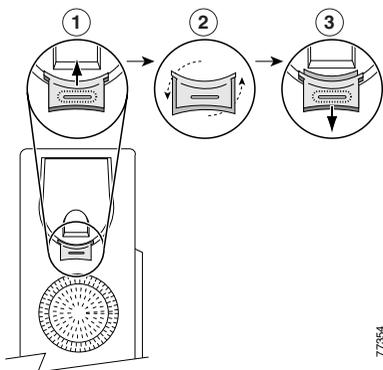
1. すべての電話機のモデルに有効なわけではありません。詳細についてはシステム管理者にお問い合わせください。

フットスタンドの調節

机上の電話機本体の角度を変更するには、フットスタンドボタンを押しながらフットスタンドを調節します。

ハンドセット受け台の調節

電話機を接続する際、ハンドセットが滑り落ちないように、受け台を調整することができます。次の表に手順を示します。



1	ハンドセットを外し、ハンドセットの受け台から四角いプラスチックのタブを引き出します。
2	タブを 180 度回します。
3	タブをハンドセットの受け台に再び差し込みます。回したタブの上部から突起が出ている状態になります。ハンドセットを受け台に戻します。

TAPS (内線番号自動登録システム) への登録

電話機をネットワークに接続した後、システム管理者が Tool for Auto-Registered Phones Support (TAPS) を使用して電話機の自動登録を指示する場合があります。TAPS は、新しい電話機にも、既存の電話機を置き換える場合にも使用できます。

TAPS に登録するには、ハンドセットを取り上げて、システム管理者から提供された TAPS 内線番号を入力し、ボイス プロンプトに従います。地域コードを含む、完全な内線番号を入力するように指示される場合があります。電話機に確認メッセージが表示されたら、ハンドセットを置きます。電話機が再起動します。

ヘッドセットについて

ヘッドセットを使用するには、ヘッドセットを電話機の背面にあるヘッドセットポートに接続します。

シスコでは、Cisco IP Phone で使用するサードパーティ製のヘッドセットについて社内でテストしていますが、ヘッドセットまたはハンドセットのベンダーによる製品については保証またはサポートしていません。Cisco IP Phone の設置場所により、固有の環境およびハードウェアの不整合が発生する場合があります。すべての環境に適した1つの「最良」な解決策を提供することはできません。ネットワークに大量のヘッドセットを設置する前に、ヘッドセットをテストして、お客様の環境に最適かどうかを確認することをお勧めします。

たとえば、ヘッドセットの種類によっては、機械的または電子的な原因により、Cisco IP Phone のユーザとリモートで通話している相手に、通話相手自身の声が反響して聞こえる場合があります。

シスコでは、不要な Radio Frequency (RF; 無線周波数) および Audio Frequency (AF; 可聴周波数) が遮蔽された高品質の外部デバイス (ヘッドセットなど) の使用を推奨しています。これらのデバイスの品質や、携帯電話および双方向ラジオなど他のデバイスとの間隔によっては、雑音が入ることもあります。詳細については、P. 6 の「Cisco IP Phone での外部デバイスの使用」を参照してください。

ヘッドセットのサポートが Cisco IP Phone に適用されない主な理由は、ハム雑音が入る可能性です。この雑音は、リモートの通話相手のみ、またはリモートの通話相手と Cisco IP Phone ユーザの両方に聞こえる場合があります。一部の雑音またはピープ音は、電灯および近くの電気モーターや大型の PC モニタなどの外的要因によって起こる可能性があります。場合によっては、ローカル電源キューブ (CP-PWR-CUBE-2) を使用することにより、ユーザに聞こえる雑音を低減または解消することができます。詳細については、P. 5 の「外付け電源装置の使用」を参照してください。

ユーザの主観

物理的、機械的、および技術的な性能以上に、ヘッドセットの音質がユーザと通話相手の双方にとって良質である必要があります。音声は主観的なものであるため、シスコはヘッドセットまたはハンドセットの性能を保証できません。ただし、次に示すサイトに記載されているヘッドセットおよびハンドセットは、Cisco IP Phone で使用した場合の音声が良質であることが報告されています。

これらを使用する場合でも、実際の環境で装置をテストして、性能が適しているどうかを判断するのは、最終的にお客様の責任となります。

ヘッドセットについては、次の URL を参照してください。

<http://vxicorp.com/cisco>

<http://plantronics.com>

電話機の概要

Cisco IP Phone 7970 シリーズは、コンピュータで使用するデータ ネットワークで音声通信を行うためのすべての機能が搭載された電話機です。この電話機を使用してコールの発信および受信、保留、短縮ダイヤル番号、転送、会議コールの開設などの機能を使用できます。

基本的なコール処理機能に加え、電話機でサポートされている特殊（詳細）なテレフォニー機能を使用して、コール処理機能を拡張およびカスタマイズできます。

Cisco IP Phone には、次の機能が備わっています。

- ネットワーク データおよびネットワーク サービスへのアクセス：電話機から特殊な Web ベースのサービスにアクセスできます。
- [ユーザ オプション] Web ページからのオンライン制御：コンピュータで Web ブラウザを使用して、電話機の機能をカスタマイズできます。
- 包括的なオンライン ヘルプ システム：役に立つヒント、説明、および操作手順を電話機から直接入手できます。

ボタンとハードウェア

電話機には、次のハードウェア機能が備わっています。

- フルカラーのタッチスクリーン ディスプレイ。
- 8つのバックライト回線ボタン。ダイナミックなコール状態の情報を示します。
- スピーカフォン モードまたはヘッドセット モードのサポート。
- 電話機の機能にアクセスする 5 つのソフトキーボタン。
- メッセージ、ディレクトリ、サービス、および設定にアクセスする 4 つの機能ボタン。
- 組み込みのオンライン ヘルプにワンタッチでアクセスするボタン。
- タッチスクリーンを一時的に無効にするボタン、およびタッチスクリーンを省電力モードから戻すボタン。

詳細については、次の図および表を参照してください。



<p>1</p>	<p>プログラマブルボタン</p>	<p>設定に応じて、プログラマブルボタンから次に示す項目にアクセスできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 電話回線（回線ボタン） • 短縮ダイヤル番号（短縮ダイヤルボタン） • Web ベースのサービス（個人アドレス帳ボタンなど） • 電話機の機能（プライバシー ボタンなど） <p>表示されるボタンの色によって、回線の状態が次のように示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 緑、点灯：この回線のコールはアクティブです（オフフック）。 ● 緑、点滅：この回線のコールは保留状態です。 ● オレンジ、点灯：プライバシー機能が有効です。 ● オレンジ、点滅：この回線で着信コールが鳴っています。 ● 赤：共有回線で、現在使用中です。 ● 色なし：この回線でアクティビティはありません（オンフック）。
----------	-------------------	--

2	フットスタンドボタン	電話機本体の角度を調節します。
3	ディスプレイボタン 	<p>タッチスクリーンを省電力モードから戻したり、クリーニングのために無効にします。</p> <p> 色なし：タッチスクリーンは入力可能な状態です。  緑の点滅：タッチスクリーンが無効になっています。  緑の点灯：タッチスクリーンおよびバックライトが無効になっています。</p> <p>P. 2 の「タッチスクリーン ディスプレイの使用とクリーニング」を参照してください。</p>
4	メッセージボタン 	サービスによって異なりますが、通常はボイス メッセージ サービスに自動ダイヤルします。P. 51 の「ボイス メッセージへのアクセス」を参照してください。
5	ディレクトリボタン 	[ディレクトリ]メニューを開閉します。履歴および社内ディレクトリへのアクセスに使用します。P. 52 の「履歴およびディレクトリの使用」を参照してください。
6	ヘルプボタン 	[ヘルプ]メニューをアクティブにします。P. 20 の「電話機に関するヘルプの表示」を参照してください。
7	設定ボタン 	[設定]メニューを開閉します。タッチスクリーンの表示および呼出音を制御するために使用します。P. 46 の「電話機の設定のカスタマイズ」を参照してください。
8	サービスボタン 	[サービス]メニューを開閉します。P. 54 の「ユーザ オプション Web ページへのアクセス」を参照してください。
9	音量ボタン 	音量およびその他の設定を制御します。P. 46 の「電話機の設定のカスタマイズ」を参照してください。
10	スピーカボタン 	スピーカフォン モードのオン / オフを切り替えます。
11	ミュートボタン 	ミュート機能のオン / オフを切り替えます。
12	ヘッドセットボタン 	ヘッドセット モードのオン / オフを切り替えます。

13	ナビゲーションボタン 	メニューのスクロールや項目の強調表示に使用します。ソフトキーと組み合わせて、強調表示された項目をアクティブにすることができます。また、電話機がオンフックになっているときにナビゲーションボタンを押すと、発信履歴ログの電話番号にアクセスできます。
14	キーパッド	電話番号のダイヤル、文字の入力、およびメニュー項目の選択に使用します。
15	ソフトキーボタン 	タッチスクリーンに表示されたソフトキーのオプションをそれぞれアクティブにします。
16	ハンドセットのライトストリップ	着信コールまたは新しいボイスメッセージがあることを示します。
17	タッチスクリーン	電話機の機能を表示します。P. 14 の「タッチスクリーンの機能」を参照してください。

タッチスクリーンの機能

次の図は、メインのタッチスクリーンの外観を示しています。アクティブなコールが存在し、いくつかの機能メニューが開いた状態になっています。タッチスクリーンの項目をアクティブにするには、該当する項目を指で押すか軽くたたきます。



1	プライマリ電話回線	プライマリ電話回線の電話番号（内線番号）を表示します。複数のタブが開いている場合は、時刻と日付もここに表示されます。
2	プログラマブルボタンのアイコン	<p>電話機のプログラマブルボタン  の設定を示すアイコン。</p> <ul style="list-style-type: none">  電話回線アイコン：電話回線に対応し、コールまたは回線の状態を表示します。電話機には複数の電話回線が割り当てられている場合があります。  短縮ダイヤルアイコン：有効な場合、短縮ダイヤルボタンに対応しています。P. 49 の「短縮ダイヤル機能の設定」を参照してください。  電話機サービスアイコン：有効な場合、Web ベースの電話機サービス（個人アドレス帳など）に対応しています。  機能アイコン：有効な場合、プライバシーなどの機能に対応しています。
3	ソフトキーのラベル	ソフトキーの機能をそれぞれ表示します。ソフトキーをアクティブにするには、ソフトキーボタン  またはタッチスクリーン上のソフトキーのラベルを押します。
4	ステータス行	オーディオモードのアイコン、ステータス情報、およびプロンプトを表示します。

5	コールアクティビティ領域	現在のコールを回線、発信者 ID、通話時間、およびコールの状態ごとに表示します。P. 17 の「コールの表示と切り替え」を参照してください。
6	電話タブ	コール アクティビティを示します。このタブを押すと、必要に応じてコール アクティビティ領域に戻ります。
7	機能タブ	開いている機能メニューをそれぞれ示します。タブを押すと、開いているメニューが切り替わります。P. 19 の「機能メニューの使用」を参照してください。

コール処理とナビゲーションのヒント

このガイドラインは、Cisco IP Phone でのコールの処理、およびメニューのナビゲートに役立ちます。

回線とコールの違いについて

電話機の回線とコールを混同してしまうことがあります。混同しないためのヒントを次に示します。

回線

Cisco IP Phone 7970 シリーズの電話機のモデルは、最高 8 本までの回線をサポートします。回線は、他人が自分へのコールに使用できる電話番号（または内線番号）にそれぞれ対応しています。電話機に割り当てられる回線の本数は、システム管理者が電話機のプログラマブルボタンに設定した内容によって異なります。回線の本数を確認するには、タッチスクリーン上のプログラマブルボタンのアイコンとラベルを確認してください。回線の本数は、電話番号および電話回線アイコン  の数と同じです。

コール

各回線では、複数のコールをサポートできます。したがって、1 本の電話回線で複数のコールを自分で処理することができます。デフォルトでは、1 本の回線につき 4 つのコールが設定されていますが、システム管理者は必要に応じてこの数を調整できます。回線の数にかかわらず、1 台の電話機で最大 200 コールまでサポートされます。

コールおよび回線のアイコンについて

電話機には、コールおよび回線の状態（オンフック、保留中、呼び出し中、接続中など）の判断に役立つアイコンが表示されます。

アイコン	コールまたは回線の状態	説明
	オンフック回線	この回線のコール アクティビティはありません。オンフック（プレダイヤル）でダイヤルしている場合は、オフフックにするまでは進行中のコールになりません。
	オフフック回線	電話番号のダイヤル中または発信コールの呼出音が鳴っている状態です。ダイヤルのオプションについては、P. 21 の「コールの発信」を参照してください。
	接続コール	通話相手に接続されている状態です。
	呼び出し中のコール	いずれかの回線でコールの呼出音が鳴っています。詳細については、P. 26 の「コールへの応答」を参照してください。
	コールの保留	このコールが保留されています。詳細については、P. 28 の「コールの保留と復帰」を参照してください。
	リモートで使用	共有回線の別の電話機に、接続コールがあります。詳細については、P. 37 の「共有回線の使用」を参照してください。
	認証されたコール	P. 41 の「安全なコールの送受信」を参照してください。
	暗号化されたコール	P. 41 の「安全なコールの送受信」を参照してください。

オンフックとオフフック

電話機がオンフックかオフフックかによって、電話機の作業や操作手順が異なることがあります。

- オンフック：電話機のハンドセットが受け台に置かれている状態。アクティブになっているコールはなく、アクティブなダイヤル トーンも聞こえません。電話機には、オンフック ダイヤル（プレダイヤル）、つまり電話番号を入力または選択してからコールをアクティブにできる機能が備わっています。電話機がオンフックの場合、各電話番号の横にこのアイコン  が表示されます。
- オフフック：電話機のハンドセットが受け台から取り上げられているか、スピーカフォンがアクティブ、またはその他の方法によってダイヤル トーンが聞こえ、着信コールに 응답できる状態です。電話機がオフフックの場合、コールまたは回線の状態に応じて、、、または  のいずれかのアイコンが表示されます。関連情報については、P. 15 の「コールおよび回線のアイコンについて」を参照してください。

コールの選択

電話機の機能の多くは、その機能の対象となるコールが選択されていることを前提にしています。たとえば、保留中のコールが4あるうち、2コールだけを会議コールに参加させるとします。このような場合は、会議に追加するコールを選択してから、機能を有効にします。

目的	操作
コールを強調表示する	ナビゲーションボタンを使用して、コールのリストをスクロールします。コールがより明るい背景に対して強調表示されます。
コールを選択する	接続コールまたは保留状態のコールを強調表示し、[選択] を押します。選択されたコールの横に、 <input checked="" type="checkbox"/> が表示されます。
選択したコールを確認する	ナビゲーションボタンを使用して、コールのリストをスクロールします。選択されたコールは <input checked="" type="checkbox"/> で示され、コールのリストでまとめて表示されます。

コールの表示と切り替え

次に示すヒントは、1本または複数の回線でコールを切り替えるときに役立ちます。切り替え先のコールが自動的に強調表示されない場合は、タッチスクリーンで該当するコールを押すか、そのコールまでスクロールします。

目的	操作
同じ回線のコールを切り替える	切り替え先のコールを強調表示し、[復帰] を押します。別のコールが自動的に保留状態になります。
接続コールから切り替えて呼び出し中のコールに応答する	[応答] または  (点滅しているオレンジのボタン) を押します。この操作により、最初のコールの保留が自動的に行われます。
異なる回線のコールを切り替える	切り替え先の回線の  (点滅している緑のボタン) を押します。回線で保留になっているコールが1つの場合、コールは自動的に復帰します。回線で保留になっているコールが複数ある場合、必要に応じて特定のコールを強調表示して、[復帰] を押します。
特定の回線におけるすべてのコールを表示する	 を押してから、すぐに回線ボタンを押します。この操作によりコールの詳細が表示されますが、コールの状態は影響を受けません。そのため、ある回線で通話しながら別の回線で保留中のコールを表示する場合に便利です。

目的	操作
回線のアクティビティの概要を表示する（回線ごとに1つのコール）	<p>強調表示された回線のを押します（回線は、関連付けられているコールが電話機のスクリーンに表示されると強調表示されません）。</p> <p>この操作により、電話機がコールの概要モードに切り替わり、回線ごとに1つのコールが表示されます。このコールは、アクティブなコール、または通話時間の最も長い保留中のコール（すべてのコールが保留中の場合）のいずれかです。</p> <p>標準の表示に戻るには、を押してから、すぐに回線ボタンを押します。</p>

ヒント

- アクティブとなり得るコールは1つに限定されるので、他のコールは自動的に保留状態になりません。
- 同じ回線に複数のコールがある場合は、優先順位が最も高く、通話時間の最も長いコールがコールのリストの先頭に表示されます。P. 42の「重要なコールの優先順位付け」を参照してください。
- 同じタイプのコールは、コールのリストでまとめて表示されます。たとえば、相互に通話したコールは先頭付近に、選択されたコールは次に、まだ応答していないコールは末尾にまとめて表示されます。

タッチスクリーンの項目の選択

タッチスクリーンの項目の選択方法	操作
項目を押す	タッチスクリーンの項目を指で押すか軽くたたきます。タッチスクリーンで電話番号を押すと、電話機でその番号がダイヤルされます。
項目番号を指定する	キーボードで該当する番号を押します。たとえば、メニューの4番目の項目を選択するには、4を押します。
項目までスクロールする	ナビゲーションボタンを押して、リストをスクロールし、項目を強調表示します。対応するソフトキー（[選択] [ダイヤル]など）を押して操作を終了するか、タッチスクリーン上の項目を指で軽くたたきます。

機能メニューの使用

目的	操作
機能メニューを開閉する	<p>次の機能ボタンを押します。</p>  メッセージ  サービス  ヘルプ  ディレクトリ  設定
リストまたはメニューをスクロールする	ナビゲーションボタンを押します。
機能メニューの1つ前のレベルに戻る	[終了]を押します。このとき、メニューの最上位レベルで[終了]を押すと、メニューが閉じます。
開いている機能メニューを切り替える	タッチスクリーンで機能タブを押します。機能メニューごとに、対応するタブがあります。タブは機能メニューが開いているときに表示されます。

テキストの入力と編集

目的	操作
タッチスクリーンで文字を入力する	キーボードで該当する番号を何度か押して、ポップアップメニューから文字（大文字 / 小文字の区別を含む）を選択します。休止すると、カーソルが自動的に先へ移動し、次の文字を入力できる状態になります。
入力した文字を削除、またはカーソルの位置を移動する	文字や数字を1つ削除するには、<<または[削除]を押します。>>を押すと、カーソルが右に移動します。

電話機に関するヘルプの表示

Cisco IP Phone には、包括的なオンライン ヘルプ システムが備わっています。ヘルプの項目はタッチスクリーンに表示されます。次の表に詳細を示します。

目的	操作
メイン メニューを表示する	電話機の  を押し、メニューが表示されるまで数秒待ちます。ヘルプがすでに表示されている場合は、[メイン] を押します。 メイン メニューには、次の項目が含まれます。 <ul style="list-style-type: none">• Cisco IP Phone について：電話機に関する詳細な説明• 操作方法：電話機の一般的なタスクに関する手順や情報• コール機能：コール機能に関する説明や手順• ヘルプ：ヘルプの使用やアクセスに関するヒント
ボタンやソフトキーを確認する	 を押してから、すばやくボタンまたはソフトキーを押します。
メニュー項目を確認する	 を押してから、すばやくタッチスクリーンのメニュー項目を押します。 または、メニュー項目を強調表示して  をすばやく 2 回押します。
ヘルプを使用してヘルプを表示する	 を押します。数秒待ってから  をもう一度押すか、またはメインメニューからヘルプを選択します。

機能の操作性とアベイラビリティについて

Cisco IP Phone の操作方法および利用可能な機能は、社内で使用されるコール処理エージェント、および社内の電話機サポート チームによる電話機システムの設定内容によって異なります。このため、この電話ガイドに記載されている機能の一部がお使いの電話機システムで利用できない、または動作が異なる場合があります。機能の操作方法またはアベイラビリティについて確認する場合は、社内のサポート デスクまたはシステム管理者にお問い合わせください。

基本的なコール処理

この章では、コールの発信、応答、転送、および会議コールなど、基本的なコール処理のタスクについて説明します。これらのタスクの実行に使用する機能は標準的なもので、ほとんどの電話機で利用できます。

コールの発信

コールを発信するには、ハンドセットを取り上げて、ダイヤルします。または、次の表に示すその他のオプションのいずれかを使用します。

目的	操作
プレダイヤル（最初のダイヤルトーンを聞かずにオンフックでダイヤル）	<p>次のいずれかの操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 電話番号を入力します。自動ダイヤル機能がポップアップして、発信履歴ログから一致する電話番号が表示される場合があります。 • ナビゲーション ボタンを押して、発信履歴ログに含まれる電話番号を表示します。 <p>次に、タッチスクリーンに表示された電話番号を押してダイヤルします。または、次のいずれかの操作を実行してオフフックにし、強調表示された電話番号をダイヤルします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ハンドセットを取り上げます。 •  または  を押します。 • [ダイヤル] を押します。 •  (回線ボタン) を押します。

目的	操作
スピーカフォンを使用する	<p>[発信] を押し、電話番号を入力します。ダイヤル、リダイヤル、または短縮ダイヤルの操作を行う前または後に  を押してもかまいません。</p> <p>ハンドセットが受け台に置かれていて、 が点灯していないときにダイヤルすると、通常はスピーカフォンモードが自動的に有効になります。[リダイヤル] 短縮ダイヤル ボタン、またはタッチスクリーンで電話番号を押した場合も同様です。</p>
最後にダイヤルした電話番号にリダイヤルする	<p>[リダイヤル] を押します。デフォルトでは、プライマリ回線がリダイヤルに使用されます。ただし、セカンダリ回線を開いてから [リダイヤル] を押してもかまいません。回線を開くには、 を押します。</p>
短縮ダイヤルを使用する	<p>次のいずれかの操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • オフフックにする前または後に  (短縮ダイヤル ボタン) を押します。 • オンフックの状態短縮ダイヤルのインデックス番号 (キーパッドの 1 ~ 99) を入力し、[短縮] を押します。 <p>詳細については、P. 49 の「短縮ダイヤル機能の設定」を参照してください。</p>
別のコールがアクティブなときにコールを発信する (別の回線を使用)	<p>新しい回線の  を押します。最初の回線のコールが自動的に保留状態になります。</p>
別のコールがアクティブなときにコールを発信する (同じ回線を使用)	<p>[保留] を押してから、[発信] を押します。これで、ダイヤル、リダイヤル、または短縮ダイヤルの操作を行えます。または、アクティブなコールで通話を続行しながら、履歴またはディレクトリからのダイヤルを準備できます (詳細については、この表の次の 2 行を参照してください)。</p>

目的	操作
履歴からダイヤルする	<p> > [不在履歴] [着信履歴] または [発信履歴] を選択します。ダイヤルするには、リストの番号を押すかまたはスクロールして選択し、オフフックにします。</p> <p>別のコールがアクティブなときに履歴からダイヤルする場合は、コールのレコードまでスクロールして [ダイヤル] を押します。次に、元のコールを処理するメニュー項目を次のいずれかから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [保留]: 最初のコールを保留にして、2 番目のコールをダイヤルします。 • [転送]: 最初の通話相手を 2 番目の通話相手に転送します (操作を完了するには、[転送] をもう一度押します)。 • [会議]: すべての通話相手との会議コールを作成します (操作を完了するには、[会議] を押します)。 • [終了]: 最初のコールを切断して、2 番目のコールをダイヤルします。
電話機の社内ディレクトリからダイヤルする	<p> > [社内ディレクトリ] を選択します (名前は異なる場合があります)。キーパッドを使用して文字を入力してから、[検索] を押します。ダイヤルするには、リストの番号を押すかまたはスクロールして選択し、オフフックにします。</p> <p>コールがアクティブなときにディレクトリからダイヤルする場合は、リストまでスクロールして [ダイヤル] を押します。次に、元のコールを処理するメニュー項目を次のいずれかから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [保留]: 最初のコールを保留にして、2 番目のコールをダイヤルします。 • [転送]: 最初の通話相手を 2 番目の通話相手に転送します (操作を完了するには、[転送] をもう一度押します)。 • [会議]: すべての通話相手との会議コールを作成します (操作を完了するには、[会議] を押します)。 • [終了]: 最初のコールを切断して、2 番目のコールをダイヤルします。

目的	操作
社内ディレクトリの Web ページからダイヤルする	Cisco WebDialer の機能を使用します。Web ブラウザを起動して、社内ディレクトリのページへ移動します。ディレクトリの電話番号をクリックします。コールを発信するには [ダイヤル] をクリックします。コールを終了するには [コールの終了] をクリックします。詳細については、『Web での Cisco IP Phone のカスタマイズ』を参照してください。 http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_ipphon/index.htm
ヘッドセットを使用する	次のいずれかの操作を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ● が点灯していない場合は、ダイヤル、リダイヤル、または短縮ダイヤルの操作を行う前または後に押します。 ● が点灯している場合は、[発信] [リダイヤル] 短縮ダイヤルボタン、または● (回線ボタン) を押します。必要に応じて電話番号を入力し、[ダイヤル] を押します。
話し中または呼び出し中の内線が対応可能になったときに通知を受信する	電話番号にコールし、ビジー音または呼出音が聞こえているときに [折り返し] を押します。切断します。内線が対応可能になると、電話機にメッセージが表示され、呼出音が鳴ります。この電話番号へのコールバックは自動的に行われません。コールを発信する必要があります。コールバックは特別な機能なので、システム管理者に設定を依頼します。通話相手がコール転送を有効にしている場合、コールバックは失敗します。
セカンダリ回線でダイヤルする	使用する回線の●を押します。
プライオリティ (Precedence) コールをかける	電話番号の前に、システム管理者から提供された MLPP アクセス番号を入力します。詳細については、P. 42 の「重要なコールの優先順位付け」を参照してください。
個人アドレス帳 (PAB) のエントリまたはファースト ダイヤルコードからダイヤルする	● > PAB service または Fast Dial service を選択します(名前は異なる場合があります)。リストからダイヤルするには、その番号を押すかまたはスクロールして選択し、オフフックにします。PAB またはファースト ダイヤル サービスへの登録については、P. 54 の「ユーザオプション Web ページへのアクセス」を参照してください。
課金コードまたはトラッキングコードを使用して発信する	特定のトーンが鳴ったら、電話番号をダイヤルして Client Matter Code (CMC) または Forced Authorization Code (FAC) を入力します。CMC または FAC コードを入力する必要があるかどうか、および詳細な手順は、システム管理者により指示されます。

目的	操作
Cisco エクステンション モビリティ プロファイルを使用してコールを発信する	<p>エクステンション モビリティ (EM) にログインしていることを確認します。 > [EM Service] (名前は異なる場合があります) を選択してから、キーパッドを使用してログイン情報を入力します。電話機を共有している場合、EM にログインしてから特定の機能にアクセスするか、コールを完了する必要があります。</p> <p>EM は特別な非デフォルトの機能のため、システム管理者に電話機および電話機のユーザへの割り当てを依頼します。『Web での Cisco IP Phone のカスタマイズ』を参照してください。このガイドは次の URL で入手できます。</p> <p>http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_ipphon/index.htm</p>
ビデオ コールをかける	<p>タッチスクリーン ディ스플레이に、アイコン  が表示されているか確認します。</p> <p>アイコンが表示されている場合、電話機でのビデオの使用および Cisco VT Advantage のサポートが可能です。この機能により、Cisco IP Phone、パーソナル コンピュータ、および外部ビデオ カメラを使用して、ビデオ コールを発信できます。詳細についてはシステム管理者にお問い合わせください。また、『Cisco VT Advantage クイックスタートガイド』および『Cisco VT Advantage ユーザガイド』を参照してください。これらは次の URL で入手できます。</p> <p>http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_ipphon/index.htm</p>

ヒント

- 電話番号を間違えて入力した場合は、<< を押して数値を消去します。ダイヤル操作を中止するには、[キャンセル] を押します。
- ダイヤル トーンが聞こえない、またはコールを完了できない場合、次の要因のうち 1 つ以上に該当している場合があります。詳細については、必要に応じてシステム管理者にお問い合わせください。
 - 電話機の  ボタンからエクステンション モビリティ サービスにログインする必要があります。
 - 電話番号をダイヤルした後で、Client Matter Code または Forced Authorization Code を入力する必要があります。
 - 電話機に時間帯制限が設定され、特定の時間帯に一部の機能を使用できない。

コールへの応答

コールに応答するには、ハンドセットを取り上げてオフフックにします。詳細については、次の表を参照してください。

目的	操作
ヘッドセットで応答する	 が点灯していない場合は押します。  がすでに点灯している場合は、[応答] または  (点滅している回線ボタン) を押します。
スピーカフォンで応答する	 、[応答] または  を押します。
接続コールから切り替えて呼び出し中のコールに応答する	[応答] を押すが、別の回線でコールの呼出音が鳴っている場合は、  (点滅しているオレンジのボタン) を押します。新しいコールへの応答と、最初のコールの保留が自動的に行われます。詳細については、P. 28 の「コールの保留と復帰」を参照してください。
コール待機を使用してコールに応答する	電話機へのコール待機機能の設定をシステム管理者に依頼します。 この機能を有効にすると、通話中に新しいコールが着信した場合、コール待機トーンが鳴り、発信者 ID 情報が表示されます。コールに応答するには、[応答] を押します。元のコールに戻るには、このコールを保留にする必要があります。P. 28 の「コールの保留と復帰」を参照してください。
呼出音が 1 ~ 2 回鳴った後で着信コールを自動的に接続する	自動応答機能の設定をシステム管理者に依頼します。詳細については、P. 45 の「ヘッドセットまたはスピーカフォン使用時の自動応答」を参照してください。
別の電話機（会議室の電話機など）で保留状態になっているコールを取得する	コール パークを使用します。P. 35 の「パークされているコールの保存と取得」を参照してください。
自分の電話機を使用して別の電話機で鳴っているコールに応答する	コール ピックアップを使用します。P. 36 の「自分の電話機でリダイレクトされたコールに応答する」を参照してください。
プライオリティ コールに応答する	現在のコールを切断して [応答] を押します。P. 42 の「重要なコールの優先順位付け」を参照してください。
着信コールをボイス メッセージ システムに直接送信する	[即転送] を押します。着信コールがボイス メッセージ グリーティングに自動転送されます。

コールの終了

コールを終了するには、切断します。次の表に詳細を示します。

目的	操作
ハンドセットを使用しているときに切断する	ハンドセットを受け台に戻します。または【終了】を押します。
ヘッドセットを使用しているときに切断する	 を押します。ヘッドセットモードをアクティブにしておく場合は、【終了】を押します。切断した後もボタンが点灯した状態になります。
スピーカフォンを使用しているときに切断する	 または【終了】を押します。
複数のコールがある場合に1つのコールだけを切断する	【終了】を押します。必要に応じて、コールの保留を解除しておきます。

コールの保留と復帰

アクティブとなり得るコールは常に1つに限定されるので、他のコールはすべて自動的に保留状態になります。

目的	操作
コールを保留にする	保留状態にするコールが強調表示されていることを確認し、[保留]を押します。
現在の回線にあるコールの保留を解除する	該当するコールが強調表示されていることを確認し、[復帰]を押します。
別の回線にあるコールの保留を解除する	 (点滅している回線ボタン)を押します。この回線で保留になっているコールが1つの場合、コールは自動的に復帰します。保留になっているコールが複数ある場合は、該当するコールが強調表示されていることを確認し、[復帰]を押します。保留状態のコールは、保留アイコン  で示されます。

ヒント

- コールが保留状態になっているとき、通常は音楽やビープ音が流れます。そのため、会議コールは保留にしないでください。

ミュートの使用

ミュートを使用すると、電話機の音声入力が無効になります。ミュートが有効な場合、コールの通信相手からの音声は聞こえますが、自分からの音声は通信相手に聞こえません。

目的	操作
ミュートをオンにする	 を押します。
ミュートをオフにする	 を押します。

接続コールの転送

接続コールは転送によってリダイレクトされます。転送先は、コールの転送先となる電話番号です。

目的	操作
転送先の相手と会話せずにコールを転送する	<p>【転送】を押して、転送先の電話番号を入力します。コールの呼出音が聞こえたら、切断します。</p> <p>システム管理者がオンフック転送を有効にしていない場合は、もう一度【転送】を押して、転送を完了する必要があります。転送をキャンセルするには、【終了】を押します。</p>
転送先の相手と会話してからコールを転送する（打診転送）	<p>【転送】を押して、転送先の電話番号を入力します。相手が応答するのを待ちます。相手がコールの転送を承諾した場合は、切断します。システム管理者が電話機でのオンフック転送を有効にしていない場合は、もう一度【転送】を押して、転送を完了する必要があります。</p> <p>転送をキャンセルするには、【終了】を押します。</p>
2つの現在のコールを相互に転送する（直接転送）	<p>その回線における任意のコールをスクロールして強調表示し、【選択】を押します。2番目のコールに対しても同じ処理を行います。選択したコールの1つが強調表示されている状態で【D転送】を押します（必要に応じて【次へ】を押して、【D転送】を表示します）。2つのコールが相互に接続され、自分のコールは終了されます。</p> <p>発信者との通信を継続する場合は、代わりに【参加】を使用して会議を作成します。詳細については、P. 31の「会議コールの使用方法」を参照してください。</p>
ボイスメッセージシステムにコールを送信する	<p>【即転送】を押します。コールがボイスメッセージグリーティングに自動転送されます。アクティブ、呼出中、または保留中であるコールで即転送を使用できます。</p>

ヒント

- オンフック転送が有効な場合は、そのまま切断、または**【転送】**を押してから切断できます。
- オンフック転送が電話機で無効になっている場合、**【転送】**を押さずに切断すると、転送の動作がキャンセルされ、転送する通話相手が保留状態になります。
- **【転送】**を使用して保留状態のコールをリダイレクトすることはできません。転送前にコールの保留を解除するには、**【復帰】**を押します。

別の電話番号へのコール転送

[全てのコールの転送] を使用すると、自分の Cisco IP Phone にかかってくる着信コールを別の電話番号にリダイレクトできます。



ヒント [全てのコールの転送] の転送先番号は、自分の電話機からダイヤルする場合とまったく同じように入力します。たとえば、必要に応じてアクセスコードや地域コードをダイヤルします。

目的	操作
プライマリ回線のコール転送を設定する	[不在] を押し、転送先の電話番号を入力します。
プライマリ回線のコール転送をキャンセルする	[不在] を押します。
プライマリ回線のコール転送が有効になっているかどうかを確認する	プライマリの電話番号の上にアイコン  が表示されていることを確認します。また、タッチスクリーンの下部付近にあるステータステキストに、コール転送の転送先番号が表示されていることも確認します。
任意の回線のコール転送を設定またはキャンセルする	[ユーザ オプション] Web ページにログインし、デバイスを選択して、メイン メニューから [すべてのコールを別の番号に転送] を選択します。電話機の回線ごとにコール転送を設定またはキャンセルできます。ログインの手順については、P. 55 の「ユーザ オプション Web ページへのログイン」を参照してください。 コール転送がプライマリ回線以外で有効になっている場合、電話機にはコール転送の状態が表示されません。その代わりとして、[ユーザ オプション] ページで設定を確認する必要があります。

ヒント

- 従来のアナログ電話機、または他の IP Phone にコールを転送することはできますが、システム管理者がコール転送機能を社内の番号に制限している場合があります。
- この機能は回線ごとに設定する必要があります。コール転送が有効でない回線にコールがかかってきた場合、通常どおりコールの呼出音が鳴ります。

会議コールの使用方法

Cisco IP Phone では、1 台の電話機の会話に 3 名以上の人々を参加させて、会議コールを作成できます。

サポートされる会議コールのタイプ

会議コールには、標準の会議とミーティングの 2 種類があります。

標準の会議コール

標準（または「アドホック」）の会議コールでは、会議の開催者が参加者にコールして会議に追加する必要があります。Cisco IP Phone を使用すると、必要性和電話機の設定に応じて、次に示す方法で標準の会議コールを作成できます。

- **[会議]**: このソフトキーは、参加者それぞれにコールをかけることによって、標準の会議を開催するときに使用します。標準の会議コールは、ほとんどの電話機で利用可能なデフォルトの機能です。
- **[参加]**: このソフトキーは、すでに 1 つの回線にある複数のコールの間で、標準の会議コールを開催するときに使用します。
- **[C 割込]**: このソフトキーは、共有回線の既存のコールに自分を追加して、そのコールを標準の会議コールに切り替えるときに使用します。これは共有回線だけで利用可能なオプション機能のため、システム管理者に設定を依頼する必要があります。詳細については、P. 37 の「共有回線の使用」を参照してください。

手順の詳細については、P. 32 の「標準の会議の開催と参加」を参照してください。

ミーティング会議コール

ミーティング会議では、会議の開催者が参加者にコールするまで待機するのではなく、参加者が会議番号を直接コールすることで会議に参加できます。

ミーティング会議を開催するには、電話機の **[ミーティング]** ソフトキーを押し、システム管理者から提供されたミーティング電話番号をダイヤルします。

ミーティング会議に参加するには、指定の時間にミーティング電話番号をダイヤルします。会議の開催者がダイヤルする前に会議の参加者が会議にコールすると、その参加者にはビジー音が聞こえます。会議の開催者がダイヤルインすると、ミーティング会議が開催され、開催者が切断しても会議を継続できます。

ミーティング会議は特別な機能のため、システム管理者に設定を依頼する必要があります。

手順の詳細については、P. 33 の「ミーティング会議コールの開催または参加」を参照してください。

標準の会議の開催と参加

標準の会議では、1つのコールに3名以上の人々が参加できます。次の表に詳細を示します。

目的	操作
参加者にコールを発信して標準の会議コールを開催する	接続コール中に、別の発信者をコールに追加するには、[会議] を押します（必要に応じて [次へ] ソフトキーを押して、[会議] を表示します）。会議の参加者の電話番号を入力します。コールが接続され、会議の参加者と会話した後、[会議] をもう一度押して、この発信者をコールに追加します。この手順を繰り返して、参加者を追加していきます。
現在の発信者を標準の会議の参加者として追加する	1つの回線に2つ以上のコールがあるとき、その回線で任意のコールをスクロールして強調表示し、[選択] を押します。会議に追加するすべてのコールについて、それぞれ同じ処理を行います。選択したコールのいずれかで、[参加] を押します（必要に応じて [次へ] ソフトキーを押して、[参加] を表示します）。アクティブなコールが選択され、会議に自動的に追加されます。
標準の会議に参加する	呼出音が鳴ったら電話機に応答します。標準の会議コールに参加する場合、特別な操作は何も必要ありません。
共有回線のコールに割り込み（自分を追加）して、そのコールを標準の会議コールに切り替える	共有回線でコール（リモートで使用）を強調表示し、[C 割込] を押します（必要に応じて [次へ] ソフトキーを押して、[C 割込] を表示します）。コールの他の参加者に対して、割り込み音が鳴ります。詳細については、P. 37 の「共有回線の使用」を参照してください。
会議の参加者のリストを表示する	アクティブな会議を強調表示し、[参加者] を押します。会議に参加した順序に従って、参加者がリストに表示されます。最後に追加された参加者がリストの先頭になります。
会議の参加者のリストを更新する	会議の参加者のリストを表示している状態で、[更新] を押します。
会議の開催者を確認する	会議のリストを表示している状態で、リストの末尾までスクロールして、会議の開催者（名前の横にアスタリスク（*）の付いた人物）を検索します。
会議に最後に追加された参加者を削除する	会議の参加者のリストで、先頭にある参加者の名前を強調表示し、[削除] を押します。最後の参加者は常にリストの先頭に表示されます。会議の参加者のリストを表示していない場合は、[ドロップ] を押します。参加者を削除できるのは、会議コールの開催者だけです。

目的	操作
会議の任意の参加者を削除する	参加者の名前を強調表示し、 [削除] を押します。参加者を削除できるのは、会議コールの開催者だけです。
標準の会議への参加を終了する	切断するか、または [終了] を押します。会議コールの開催者ではない場合、切断しても他の参加者の接続は中断されません。 会議コールの開催者の場合、切断すると会議が終了する場合があります（システム管理者が電話機に設定した内容によって異なります）。会議が終了しないようにするには、会議を別の参加者に転送してから切断します。その後、その参加者は会議の「仮想管理者」としての役目をします。仮想管理者は参加者を追加または削除できません。ただし、会議は開催されたときの参加者で継続されます。

ヒント

- コールを標準の会議コールに追加する前に、それらのコールが同じ回線上にある必要があります。コールが異なる回線上にある場合は、**[会議]**または**[参加]**を使用する前に、それらのコールを1つの回線に転送します。
- **[参加]**を使用しようとしたとき、「参加者情報がありません」というエラーメッセージが表示された場合は、アクティブなコールのほかに少なくとも1つのコールを選択していることを確認してください（アクティブなコールは自動的に選択されます）。
- 電話機の設定内容によっては、会議を作成した後で切断すると、その会議が終了する場合があります。詳細については、上の表で最後の行を参照してください。

ミーティング会議コールの開催または参加

ミーティング会議では、会議の開催者が参加者にコールするまで待機するのではなく、参加者が会議番号を直接コールすることで会議に参加できます。詳細については、次の表を参照してください。

目的	操作
ミーティングを開催する	<p>[発信] を押すか、またはハンドセットを取り上げてオフフックにします。次に、[ミーティング] を押して、ミーティング番号をダイヤルします（有効な番号のリストについては、システム管理者にお問い合わせください）。</p> <p>参加者がダイヤルインできるように、会議番号を必ず参加者に通知してください。開催者がダイヤルインする前に参加者が会議番号をコールすると、その参加者にはビジー音が聞こえます。</p>
ミーティングに参加する	<p>会議の開催者から提供されたミーティング番号をダイヤルします。会議の開催者がダイヤルインした後に限り、会議に接続されません。</p>
ミーティングを終了する	<p>切断するか、または[終了] を押します。</p>

応用的なコール処理

応用的なコール処理のタスクには、特別な（標準以外の）機能が伴うため、コール処理の需要や作業環境に応じて、システム管理者に電話機の設定を依頼します。システム管理者が設定を有効にしない限り、これらの機能にアクセスできません。

パークされているコールの保存と取得

コールをパークすると、コールを保存し、Cisco CallManager システムの別の電話機（同僚のデスクや会議室の電話機など）でコールを取得できます。コールパークは特別な機能のため、システム管理者に設定を依頼する必要があります。

目的	操作
コールパークを使用してアクティブなコールを保存する	コール中に、[パーク]を押します（必要に応じて[次へ]ソフトウェアキーを押して、[パーク]を押します）。電話機にコールが保存されます。電話機のスクリーンに表示されたコールのパーク番号を書き留めて、切断します。
パークされたコールを取得する	ネットワーク内の任意の Cisco IP Phone でコールのパーク番号を入力し、コールに接続します。 パークされているコールを取得するまでの時間は制限されていて、その時間を過ぎると元の電話機に戻って呼出音が鳴ります。この時間制限については、システム管理者にお問い合わせください。

自分の電話機でリダイレクトされたコールに应答する

コール処理を同僚と分担している場合は、システム管理者にコールピックアップの設定を依頼します。コールピックアップを使用すると、同僚の電話機で呼び出し中のコールを自分の電話機にリダイレクトすることで应答できます。コールピックアップ機能を使用すると、コールピックアップグループにいる同僚（**[ピック]**）、別のピックアップグループにいる同僚（**[G ピック]**）または自分のグループと関連付けられているグループにいる同僚（**[他 Grp]**）のコールを処理できます。

目的	操作
コールピックアップグループ内の内線で鳴っているコールに应答する	<p>[ピック]を押して、コールに接続します（オフフックにしてから[ピック]を押す必要がある場合もあります）。</p> <p>システム管理者が自動ピックを有効にしていない場合、[ピック]を押すと、自分の電話機でコールの呼出音が鳴ります。この場合、[応答]を押してコールに接続します。</p>
グループ外の内線で鳴っているコールに应答する	<p>[G ピック]を押します（オフフックにしてから[G ピック]を押す必要がある場合もあります）。システム管理者から提供されたグループピックコードを入力して、コールに接続します。</p> <p>システム管理者が自動ピックを有効にしていない場合、[G ピック]を押してグループピックコードを入力すると、自分の電話機でコールの呼出音が鳴ります。この場合、[応答]を押してコールに接続します。</p>
自分のグループまたは関連付けられたグループ内の別の内線で鳴っているコールに应答する	<p>[他 Grp]を押して、コールに接続します（オフフックにしてから[他 Grp]を押す必要がある場合もあります）。</p> <p>システム管理者が自動ピックを有効にしていない場合、[他 Grp]を押すと、自分の電話機でコールの呼出音が鳴ります。この場合、[応答]を押してコールに接続します。</p>

ヒント

- **[ピック]**および**[G ピック]**を押すと、一番長く鳴り続けているコールに接続します。
- **[他 Grp]**では、システム管理者が複数のコールピックアップグループを自分のグループと関連付けたり、そのグループにプライオリティを割り当てることができます。**[他 Grp]**を押すと、プライオリティが一番高いピックアップグループで呼び出し中のコールに接続します。
- プライマリ回線以外の内線でコールに应答する場合は、まず、使用可能な回線ボタンを押してから、コールピックアップのソフトキーを押します。

共有回線の使用

システム管理者によって電話機に「共有」電話回線が割り当てられていることがあります。通常、共有回線には次の2種類の用途があります。

- 1人で複数の電話機を使用する場合：たとえば、共有回線がデスクの電話機と実験室の電話機の両方に割り当てられているとします。共有回線への着信コールは両方の電話機で鳴り、いずれの電話機を使用してもコールに応答できます。
- 回線を複数の人々で共有する場合：たとえば、共有回線で着信コールを処理できる人々のうちの1人、または内線番号をアシスタントと共有しているマネージャである場合などです。

共有回線について

リモートで使用中

共有回線が設定されている場合、電話機のスクリーンにリモートで使用中のアイコンが表示される場合があります。このアイコンは、同僚が現在共有回線を使用していることを示します。リモートで使用中のアイコンが表示されていても、通常どおり共有回線でコールを発信および受信できます。

コール情報の共有と割り込み

回線を共有している同僚がプライバシー機能を有効にしない限り、その同僚が共有回線で発信および受信するコールに関する情報を電話機のスクリーンに表示できます。この情報には、発信者 ID および通話時間が含まれます。これとは逆に、自分が共有回線を使用しているときは、自分のコールに関する情報も同僚の電話機のスクリーンに表示されます。

コール情報がこのように表示されている状態で、割り込み機能または C 割り込み機能のいずれかを使用すると、共有回線のコールに自分自身を追加できます。共有回線のコールに自分自身を追加することを、割り込みと言います。割り込みの詳細については、P. 38 の「共有回線のコールへの参加」を参照してください。

プライバシー

自分のコールに関する情報を、回線を共有している同僚に見られないようにするには、プライバシー機能を有効にします。この機能により、同僚が自分のコールに割り込むのを防ぐこともできます。P. 39 の「他人による共有回線のコールの表示および参加の防止」を参照してください。

共有回線でサポートされるコールの最大数

共有回線がサポートするコールの最大数は、電話機によって異なります。したがって、同僚が共有回線で新しいコールを発信できる場合でも、自分にはできない場合があります。たとえば、自分の電話機は共有回線で最大 4 コールをサポートし、同僚の電話機は共有回線で 5 コールをサポートしているとします。回線に 4 つのコールがある場合、自分の電話機では **[発信]** ソフトキーを使用できませんが、同僚は使用できます。

共有回線のコールへの参加

電話機の設定によって、割り込み機能または C 割り込み機能を使用して、共有回線で開設されたコールに自分自身を追加できる場合があります。通常は、これらの機能のいずれか 1 つだけを使用できます。

目的	操作
共有回線で同僚がアクティブなコール中かどうかを確認する	共有回線番号を確認します。回線が別の電話機で使用中の場合は、回線ボタンが赤  で表示され、リモートで使用中のアイコン  が表示されます。 同僚がプライバシー機能を有効にしている場合、 [割り込み] および [C 割込] ソフトキーが無効となり、コールに割り込むことができません。この場合、タッチスクリーンにプライベートコールの情報を表示できませんが、共有回線を使用して新しいコールを発信および受信することはできます。
共有回線における現在のコールを表示する	リモートで使用中の回線の赤い回線ボタン  を押します。プライベートコール以外はすべてタッチスクリーンのコール アクティビティ領域に表示されます。
[割り込み] ソフトキーを使用して共有回線のコールに自分自身を追加する	電話機のスクリーンでコール（リモートで使用）を強調表示し、 [割り込み] を押します（必要に応じて [次へ] ソフトキーを押して、 [割り込み] を表示します）。他の参加者に対して自分の存在を知らせるピープ音が鳴ります。 コールを切断すると、他の参加者に切断音が聞こえ、元のコールが続行します。

目的	操作
[C 割込] ソフトキーを使用して共有回線のコールに自分自身を追加する	<p>タッチスクリーンでコール（リモートで使用）を強調表示し、[C 割込] を押します（必要に応じて [次へ] ソフトキーを押して、[C 割込] を表示します）。他の参加者にトーンと短い中断音が聞こえ、電話機のスクリーンのコール情報が変更されます。</p> <p>割り込み機能と違い、C 割り込み機能ではコールが標準の会議コールに切り替えられ、新しい会議の参加者をコールに追加できます。C 割り込みで使用できる会議の機能の詳細については、P. 31 の「会議コールの使用方法」を参照してください。</p> <p>コールを切断すると、回線に 3 名以上の参加者が残っている場合に限り、そのコールは会議コールとして続行します。</p>

ヒント

- [割り込み] および [C 割込] ソフトキーは、プライベート コールでは使用できません。
- 使用している電話機が暗号化用に設定されていない場合は、暗号化されたコールに割り込みできません。このことが原因で割り込みに失敗すると、電話機は速いビジー音を再生します。P. 41 の「安全なコールの送受信」を参照してください。
- コールが保留状態になるか、転送されるか、または会議コールに切り替えられた場合、[割り込み] を使用して参加していたコールから切断されます。

他人による共有回線のコールの表示および参加の防止

電話回線を共有している場合、プライバシー機能を使用すると、回線を共有している他人が自分のコールを表示またはコールに割り込む（割り込み機能または C 割り込み機能を使用して共有回線のコールに彼ら自身を追加）のを防ぐことができます。

目的	操作
他人が共有回線のコールを表示したり、コールに参加したりできないようにする	[非通知] とラベルされたボタン  を押して、プライバシーを有効にします。プライバシーを有効にすると、このアイコンがプライバシー ボタン  の横に表示され、ボタンの色がオレンジ  になります。
他人が共有回線のコールを表示したり、コールに割り込みできるようにする	[非通知] とラベルされたボタン  を押して、プライバシーを無効にします。プライバシーを無効にすると、このアイコンがプライバシー ボタン  の横に表示され、ボタンが消灯  します。

ヒント

- 自分の回線を共有している電話機がプライバシー機能を有効にしている場合、通常どおり共有回線を使用してコールを発信および受信できます。ただし、共有回線の既存のコールに自分自身を追加したり、[割り込み] ソフトキーを使用することはできません。
- プライバシー機能は、自分の電話機のすべての共有回線に適用されます。その結果、自分の電話機に複数の共有回線がある状態でプライバシー機能を有効にすると、同僚は自分のすべての共有回線のコールを表示またはコールに割り込みできなくなります。

不審なコールのトレース

不審（迷惑）なコールを受信している場合、システム管理者は電話機に Malicious Call Identification (MCID) 機能を追加できます。この機能を使用すると、アクティブなコールを不審なコールとして識別できます。その結果、一連のトラッキングと通知のメッセージが自動的に発信されます。

目的	操作
システム管理者に不審なコールまたは嫌がらせのコールの受信を通知する	[迷惑呼] を押します。特別なトーンが聞こえ、電話機に「メイワクコガセイコウシマシタ」というメッセージが表示されます。このコールは終了しない限りアクティブです。

安全なコールの送受信

システム管理者が電話機システムをどのように設定したかによって異なりますが、電話機では安全なコールの送受信がサポートされます。

電話機では、次のタイプのコールがサポートされます。

- 認証されたコール：コールに参加しているすべての電話機の ID が検証されています。
- 暗号化されたコール：電話機が Cisco IP ネットワーク内で暗号化された音声（会話）を送受信しています。暗号化済みのコールは認証済みのコールでもあります。
- ノンセキュア コール：参加している電話機または接続の少なくとも 1 つでセキュリティ機能がサポートされていないか、電話機を検証できません。

目的	操作
コールのセキュリティ レベルを確認する	<p>コール アクティビティ領域の右上、通話時間タイマーの横にあるセキュリティ アイコンが、次のいずれかの状態になっていることを確認します。</p> <p> 認証されたコール</p> <p> 暗号化されたコール</p> <p>コールがノンセキュアの場合は、いずれのセキュリティ アイコンも表示されません。</p>
社内で安全なコールを発信できるかどうかを判断する	システム管理者にお問い合わせください。



(注) 電話機でのセキュリティ機能の動作に影響を与える相互作用、制限、および限定事項がありません。詳細については、システム管理者にお問い合わせください。

重要なコールの優先順位付け

官庁のような特別な環境では、緊急または重要なコールを発信および受信しなければならない場合があります。この特別なコール処理が必要な場合は、電話機への Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) の追加をシステム管理者に依頼します。

次の用語に留意してください。

- *Precedence* : コールに関連付けられたプライオリティを示します。
- *Preemption* : プライオリティの低い既存のコールを終了して、電話機に送信されたプライオリティのより高いコールを受け入れる処理です。

目的	操作
発信コールのプライオリティレベル(Precedence)を選択する	対応するコールの Precedence 番号のリストについては、システム管理者にお問い合わせください。
プライオリティ(Precedence)コールをかける	電話番号の前に、システム管理者から提供された MLPP アクセス番号を入力します。
特別な(通常より速い)呼出音または特別なコール待機のトーンが聞こえる	プライオリティ(Precedence)コールを受信しています。電話機のスクリーンの MLPP アイコンが、コールのプライオリティレベルを示します。
コールのプライオリティレベルを表示する	電話機のスクリーンの MLPP アイコンが、次のいずれかの状態になっていることを確認します。 <ul style="list-style-type: none">■ プライオリティコール■ 中程度のプライオリティの(即時)コール■ プライオリティの高い(フラッシュ)コール■ プライオリティの最も高い(フラッシュオーバーライド)コールまたはエグゼクティブオーバーライドコール プライオリティの高い順に、コールのリストの先頭から表示されます。MLPP アイコンが表示されない場合、プライオリティレベルは普通(日常)です。
プライオリティの最も高いコールを受ける	通常どおりコールに応答します。必要に応じて、先にアクティブなコールを終了します。
コールを中断する音が連続的に聞こえる	自分または他の参加者が、現在のコールに優先すべきコールを受信しています。すぐに切断して、プライオリティのより高いコールの呼出音が鳴るようにします。

ヒント

- MLPP が有効なコールを発信または受信すると、標準のトーンとは異なる特別な呼出音とコール待機のトーンが鳴ります。
- 無効な MLPP アクセス番号を入力すると、音声通知でエラーを警告されます。

ハンドセット、ヘッドセット、およびスピーカフォンの使用方法

次の表では、デバイスの使用方法について説明しています。

目的	操作
ハンドセットを使用する	オフフックにするにはハンドセットを取り上げます。オンフックにするにはハンドセットを置きます。
ヘッドセットを使用する	<p>ヘッドセットモードのオン/オフを切り替えるには、を押します（自動応答を使用している場合は、例外について P. 45 の「ヘッドセットまたはスピーカフォン使用時の自動応答」を参照してください）。</p> <p>ヘッドセットの使用中は、やなど、電話機のすべてのコントロールにアクセスできます。</p> <p>ヘッドセットの購入については、P. 45 の「ヘッドセットの購入」を参照してください。</p>
スピーカフォンを使用する	<p>スピーカフォンモードのオン/オフを切り替えるには、を押します。</p> <p>ハンドセットが受け台に置かれていて、が点灯していないときに電話番号をダイヤル、またはコールに应答すると、通常はスピーカフォンモードが自動的に有効になります。</p>
コール中に（ハンドセットから）ヘッドセットまたはスピーカフォンに切り替える	 または  を押し、ハンドセットを置きます。
コール中に（スピーカフォンまたはヘッドセットから）ハンドセットに切り替える	ボタンは何も押さずに、ハンドセットを取り上げます。

ヒント

- ヘッドセットポートの位置については、P. 7 の「電話機の接続」を参照してください。
- ハンドセット、ヘッドセット、およびスピーカフォンを使用してコールの発信、応答、終了などの処理を行う方法については、P. 21 の「基本的なコール処理」を参照してください。

ヘッドセットの購入

電話機では、電話線が 4 本または 6 本のヘッドセットのジャックがサポートされています。ヘッドセットの購入については、P.9 の「ヘッドセットについて」を参照、または <http://vxicorp.com/cisco> の Web サイトを参照してください。

ヘッドセットまたはスピーカフォン使用時の自動応答

大量の着信コールを受ける場合、または他人のコールを処理する場合は、自動応答を使用すると便利です。システム管理者は、スピーカフォンまたはヘッドセットのいずれかの使用時に自動応答するように設定します。次の表に詳細を示します。

目的	操作
ヘッドセットで自動応答を使用する	<p>通話中以外も、ヘッドセットモードを有効（つまり、 が点灯している状態）にしておきます。ヘッドセットモードを有効にするには、 を押してコールを終了するのではなく、[終了]を押して切断し、新しいコールを発信するときに[発信]または[ダイヤル]を押します。</p> <p>電話機がヘッドセットモードで自動応答を使用するように設定されていると、 が点灯している場合に限り、コールが自動的に応答されます。それ以外の場合は、通常どおりコールの呼出音が鳴り、手動でそのコールに応答する必要があります。</p>
スピーカフォンで自動応答を使用する	<p>ハンドセットを受け台に置き、ヘッドセットモードを無効（つまり、 が消灯している状態）にしておきます。</p> <p>電話機がスピーカフォンモードで自動応答を使用するように設定されていると、上記の条件を満たした場合に限り、スピーカフォンを使用してコールが自動的に応答されます。それ以外の場合は、通常どおりコールの呼出音が鳴り、手動でそのコールに応答する必要があります。</p>

電話機の設定のカスタマイズ

次の表に示すように、設定を調整することによって、Cisco IP Phone を個人設定できます。この情報を利用するときは、次のヒントを参考にしてください。

- ほとんどの設定を電話機で行えますが、一部の設定については [ユーザ オプション] Web ページからオンラインでアクセスする必要があります。詳細については、P. 55 の「ユーザ オプション Web ページへのログイン」を参照してください。
-  が反応しない場合、システム管理者が電話機でこのボタンを無効に設定している可能性があります。詳細については、システム管理者にお問い合わせください。

音量の調節

次の表では、電話機の音量レベルを調節および保存する方法について説明しています。

目的	操作
コールの音量レベルを調節する	コール中またはダイヤル トーンが聞こえているときに  を押します。 以降のコールのために、この音量設定を保存するには、[保存] を押します。 ハンドセット、スピーカフォン、およびヘッドセットの音量設定は個別に調節する必要があります。
呼出音の音量レベルを調節する	ハンドセットが受け台に置かれていて、ヘッドセットとスピーカフォンのボタンがオフになっている状態で、  を押しします。設定した呼出音の音量が自動的に保存されます。

呼出音およびメッセージ インジケータのカスタマイズ

着信コールまたは新しいボイス メッセージを電話機で示す方法を、回線ごとにカスタマイズできます。呼出音やその他のインジケータをカスタマイズすると、複数の回線をすばやく区別するのに役立ちます。たとえば、回線 1 の着信コールを鳥の鳴き声で示し、回線 2 の着信コールを太鼓の音で示すことができます。

目的	操作
呼出音を変更する	 > [ユーザ設定] > [呼出音] を選択します。電話回線またはデフォルトの呼出音の設定を選択します。次に、呼出音のタイプを選択してそのサンプルを再生します。目的の呼出音を選択したら、[選択] および [保存] を押します。[キャンセル] を押すと、前回保存したときの設定に戻ります。[デフォルト] を押すと、選択された電話回線にデフォルトの呼出音の設定が適用されます。
呼出音のパターン (点滅のみ、一度だけ鳴らす、ピープ音のみなど) を変更する	[ユーザ オプション] Web ページにログインし、デバイスを選択して、メイン メニューから [電話の呼び出し音設定を変更] を選択します。必要に応じて、システム管理者がこのオプションを有効にします。
ハンドセットにあるボイスメッセージのランプの動作を変更する	[ユーザ オプション] Web ページにログインし、デバイスを選択して、メイン メニューから [メッセージ受信のランプポリシーを変更] を選択します。通常は、デフォルトのシステム ポリシーに従って、新しいボイス メッセージの受信時には常に電話機のランプが点灯します。

タッチスクリーンのカスタマイズ

必要に応じて、タッチスクリーンを調節できます。次の表を参照してください。

目的	操作
タッチスクリーンの明るさを変更する	 > [ユーザ設定] > [明るさ] を選択します。明るさを調節するには、[アップ]、[ダウン]、または  を押します。次に、[保存] を押します。[キャンセル] を押すと、前回保存したときの設定に戻ります。
タッチスクリーンの表示角度を調節する	 > [ユーザ設定] > [表示角度] を選択します。表示角度を調節するには、[アップ] [ダウン] または  を押します。次に、[保存] を押します。[キャンセル] を押すと、前回保存したときの設定に戻ります。
背景イメージを変更する	 > [ユーザ設定] > [背景イメージ] を選択します。利用可能な画像を表示するには、タッチスクリーンまたはナビゲーションボタンを使用します。[選択] を押して画像を選択します。背景の表示を確認する場合は、[プレビュー] を押します。選択メニューに戻るには、[終了] を押します。選択した画像を使用する場合は [保存] を押します。[キャンセル] を押すと、前回保存したときの設定に戻ります。
タッチスクリーンの言語を変更する	[ユーザ オプション] Web ページにログインし、デバイスを選択して、メインメニューから [この電話のロケールを変更] を選択します。

短縮ダイヤル機能の設定

短縮ダイヤル機能を使用すると、ボタンを押すか、またはインデックスコードを入力することにより、コールを発信できます。

電話機に短縮ダイヤルを設定するには、次のいずれかの方法を実行します。

- 短縮ダイヤルをボタンに割り当てる：電話機の利用可能なプログラマブルボタン（回線、機能、またはサービスボタンとしてまだ設定されていない）に、短縮ダイヤル番号を割り当てることができます。
- 短縮ダイヤルをインデックスコードに割り当てる：電話番号を完全にダイヤルしなくても、固定短縮ダイヤル機能を使用して、割り当てられたインデックス番号（1～99）を入力できます。

次の表に示すように、いずれのタイプの短縮ダイヤル機能も [ユーザ オプション] Web ページで設定します。[ユーザ オプション] Web ページの詳細については、P. 55 の「ユーザ オプション Web ページへのログイン」を参照してください。

目的	操作
短縮ダイヤル番号を電話機のボタンに追加する	<p>[ユーザ オプション] Web ページにログインし、デバイスを選択して、メインメニューから [短縮ダイヤルの追加または更新] を選択します。</p> <p>[電話の短縮ダイヤル設定] セクションで、利用可能な短縮ダイヤル ボタンごとに電話番号とラベルを入力します。自分の電話機からダイヤルする場合とまったく同じように、電話番号を入力します。たとえば、必要に応じて「9」などのアクセスコードや地域コードをダイヤルします。</p> <p>入力したラベルは、タッチスクリーンの短縮ダイヤル ボタンの横に表示されます。</p>
固定短縮ダイヤル機能で使用する短縮ダイヤル番号を追加する	<p>[ユーザ オプション] Web ページにログインし、デバイスを選択して、メインメニューから [短縮ダイヤルの追加または更新] を選択します。</p> <p>[電話機のボタンに割り当てられていない短縮ダイヤル設定] セクションで、利用可能な短縮ダイヤル ボタンごとに電話番号とラベルを入力します。自分の電話機からダイヤルする場合とまったく同じように、電話番号を入力します。たとえば、必要に応じて「9」などのアクセスコードや地域コードをダイヤルします。</p>
短縮ダイヤル番号を削除する	短縮ダイヤルのいずれかの Web ページから、電話番号とラベルを削除します。

ヒント

- 短縮ダイヤル機能を使用してコールを開始する方法については、P.21 の「コールの発信」を参照してください。
- システム管理者は電話機に短縮ダイヤル ボタンを割り当てることができます。また、個人設定でできる短縮ダイヤル ボタンの数を制限することもできます。

ボイス メッセージ、履歴、およびディレクトリの使用

この項では、ボイス メッセージ、履歴、およびディレクトリにアクセスする機能ボタンの使用方法について説明します。

ボイス メッセージへのアクセス

お使いの電話機システムが使用するボイス メッセージ サービスは、会社によって決定されます。このサービスの詳細については、付属のマニュアルを参照してください。ボイス メッセージ サービス機能の一般的な概要については、次の表を参照してください。

目的	操作
ボイス メッセージ サービスの個人設定	 を押し、音声の指示に従います。タッチスクリーンにメニューが表示された場合は、該当するメニュー項目を選択します。
新しいボイス メッセージの着信を確認する	電話機で次のインジケータを確認します。 <ul style="list-style-type: none"> • ハンドセットの赤いランプの点灯（このインジケータは異なる場合があります。P. 47 の「呼出音およびメッセージ インジケータのカスタマイズ」を参照してください） • 封筒アイコン  の点滅、およびタッチスクリーンのテキストメッセージ。
ボイス メッセージを聞く、またはボイス メッセージ メニューにアクセスする	 を押します。このボタンを押すことにより、メッセージ サービスに自動ダイヤルされるか、またはタッチスクリーンにメニューが表示されます。この動作は、お使いのボイス メッセージ サービスによって異なります。
ボイス メッセージ システムにコールを送信する	[即転送] を押します。即転送機能により、コール（呼び出し中または保留状態のコールを含む）がボイス メッセージ システムに自動転送されます。発信者はボイス メッセージの内容を聞いて、メッセージを残すことができます。

履歴およびディレクトリの使用

電話機は、コールに関する不在履歴、発信履歴、および着信履歴を管理します。ディレクトリボタンを使用すると、これらの履歴にアクセスできます。また、利用可能な場合は、社内ディレクトリにアクセスすることもできます。

目的	操作
履歴を表示する	 > [不在履歴]、[発信履歴]、または [着信履歴] を選択します。それぞれのログに最大 100 件までのレコードを保存できます。
履歴からダイヤルする	<p>リストの項目を選択して、オフフックにします。レコードに表示された電話番号を編集（プレフィックスの追加や削除など）する必要がある場合は、[編集] を押します。次に、<< または >> を押して、数値を消去、またはカーソルを移動します。</p> <p>コールがアクティブなときに履歴からダイヤルする場合は、コールのレコードまでスクロールして [ダイヤル] を押します。次に、元のコールを処理するメニュー項目を次のいずれかから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none">• [保留]: 最初のコールを保留にして、2 番目のコールをダイヤルします。• [転送]: 最初の通話相手を 2 番目の通話相手に転送し、自分のコールを終了します（操作を完了するには、ダイヤルした後で [転送] をもう一度押します）。• [会議]: 自分とすべての通話相手との間で会議コールを作成します（操作を完了するには、ダイヤルした後で [会議] をもう一度押します）。• [終了]: 最初のコールを切断して、2 番目のコールをダイヤルします。
履歴を削除する	 を押してから、[クリア] を押します。この操作により、不在履歴、発信履歴、および着信履歴が削除されます。

目的	操作
社内ディレクトリからダイヤルする	<p> > [社内ディレクトリ] を選択します (名前は異なる場合があります)。キーパッドで文字を入力して、リストを検索します。名前の一部でも検索できます。リストからダイヤルするには、その番号を押すかまたはスクロールして選択し、オフフックにします。</p> <p>コールがアクティブなときにディレクトリからダイヤルする場合は、リストまでスクロールして [ダイヤル] を押します。次に、元のコールを処理するメニュー項目を次のいずれかから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [保留]: 最初のコールを保留にして、2 番目のコールをダイヤルします。 • [転送]: 最初の通話相手を 2 番目の通話相手に転送し、自分のコールを終了します (操作を完了するには、ダイヤルした後で [転送] をもう一度押します)。 • [会議]: 自分とすべての通話相手との間で会議コールを作成します (操作を完了するには、ダイヤルした後で [会議] をもう一度押します)。 • [終了]: 最初のコールを切断して、2 番目のコールをダイヤルします。



(注) ネットワークがシャットダウン、またはリセットされると、履歴情報が消失する場合があります。

ユーザ オプション Web ページへのアクセス

Cisco IP Phone はネットワーク デバイスのため、社内の他のネットワーク デバイスと情報を共有することができます。この中には、自分のコンピュータやそこから Web ブラウザを使用してアクセスできる Web ベースのサービスも含まれます。

Cisco CallManager の [ユーザ オプション] Web ページを使用すると、コンピュータで電話機サービスの設定と、設定や機能の制御を行うことができます。Web ページで機能とサービスを設定しておくと、電話機でアクセスできるようになります。

たとえば、Web ページで短縮ダイヤル ボタンを設定すると、電話機でアクセスできるようになります。

この項では、[ユーザ オプション] Web ページへのアクセス方法と、電話機サービスへの登録方法について説明します。設定可能な機能と、登録可能な電話機サービスの詳細については、『*Web での Cisco IP Phone のカスタマイズ*』を参照してください。このガイドは次の URL から入手できます。

http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_ipphon/index.htm

ユーザ オプション Web ページへのログイン

手順

ステップ 1 [ユーザ オプション] の URL、ユーザ ID、およびデフォルトのパスワードをシステム管理者から入手します。

ステップ 2 コンピュータで Web ブラウザを起動し、システム管理者から提供された URL を入力してログインします。

ステップ 3 総合メニューのデバイスを選択するドロップダウン リストから、デバイス タイプ（電話機のモデル）を選択します。

選択したデバイス タイプに対応したオプションが、コンテキスト メニューに表示されます。

[ユーザ オプション] ページのナビゲートに関するヒント

- 該当するオプションをすべて表示するには、メニュー ページでデバイスを選択します。
- 変更内容を適用して保存するには、[更新] をクリックします。
- コンテキスト メニューに戻るには、[メニューに戻る] をクリックします。
- [ユーザ オプション] ページを終了するには、[ログオフ] をクリックします。

電話機サービスへの登録

電話機から登録電話サービスにアクセスするには、まずコンピュータで[ユーザ オプション]Web ページにアクセスし、電話サービスに登録する必要があります。ログインについては、P. 55 の「ユーザ オプション Web ページへのログイン」を参照してください。

電話機サービスの内容は次のとおりです。

- Web ベースの情報（株式相場、映画情報、気象情報など）
- ネットワーク データ（社内カレンダー、検索可能なディレクトリなど）
- 電話機の機能（個人ファースト ダイヤル、個人アドレス帳など）

詳細については、次の表を参照してください。

目的	ログインしてデバイス タイプを選択した後の操作
サービスに登録する	メイン メニューから [Cisco IP Phone サービスの設定] を選択します。[使用可能なサービス] ドロップダウン リストからサービスを選択し、[続行] をクリックします。指示に従って情報（郵便番号や PIN など）を入力し、[登録] をクリックします。
登録を変更または解除する	メイン メニューから [Cisco IP Phone サービスの設定] を選択します。[登録されているサービス] パネルのサービスをクリックします。登録内容を変更して [更新] をクリック、または [登録解除] をクリックします。
サービスをプログラマブルボタン  に追加する	サービスを登録した後、メイン メニューから [サービス URL ボタンの追加または更新] を選択します。利用可能なボタンごとに、ドロップダウン リストからサービスを選択し、説明のテキストを入力します。変更が終わったら、[更新] をクリックします。サービスに利用可能なプログラマブルボタンの数は、システム管理者が決定します。また、電話機へのサービスボタンの割り当ても、システム管理者が行う場合があります。
電話機からサービスにアクセスする	電話機の  を押します。または、プログラマブルボタン  にサービスを追加している場合は、そのボタンを押します。
電話機サービスの使用方法を確認する	『Web での Cisco IP Phone のカスタマイズ』を参照してください。このガイドは次の URL から入手できます。 http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_ipphon/index.htm

その他の設定オプションについて

システム管理者は必要に応じて、特別なサービスや機能のほかに、特別なボタンやソフトキーのテンプレートを使用するように電話機を設定できます。次の表は、設定オプションの概要について説明しています。コールの需要や作業環境に応じたオプションの設定について、電話機のシステム管理者と相談するときに役立ちます。



(注) この表に記載されている電話ガイドとその他のマニュアルについては、次の URL から入手できます。

http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_ipphon/index.htm

目的	操作	参照先または問い合わせ先
自分の電話回線で処理できるコールを増やす必要がある	回線でサポートされるコールの追加をシステム管理者に依頼します。	システム管理者または電話機のサポート チームにお問い合わせください。
電話回線が1本では足りない	追加の電話番号の設定をシステム管理者に依頼します。	システム管理者または電話機のサポート チームにお問い合わせください。
短縮ダイヤル ボタンが足りない	まず、現在利用可能な短縮ダイヤル ボタンをすべて使用しているかどうかを確認します。 追加の短縮ダイヤル ボタンが必要な場合は、固定短縮ダイヤル機能の使用、またはファースト ダイヤル サービスへの登録を試行してください。 別の方法として、電話機に Cisco IP Phone 7914 拡張モジュールを接続することもできます。	次の説明を参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> • P. 49 の「短縮ダイヤル機能の設定」 • P. 56 の「電話機サービスへの登録」 • <i>Cisco IP Phone 7914 Expansion Module Phone Guide</i>

目的	操作	参照先または問い合わせ先
秘書と仕事をしている(または自分が秘書である)	<p>次の機能の導入を検討してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco IP Manager Assistant サービス • 共有回線 	<p>次の説明を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • P. 37 の「共有回線の使用」 • <i>Cisco IP Manager Assistant ユーザガイド</i>
1つの内線を複数の電話機で使用する	共有回線が必要です。共有回線を使用することで、たとえば1つの内線番号をデスクの電話機と実験室の電話機で使用することができます。	P. 37 の「共有回線の使用」を参照してください。
電話機やオフィススペースを同僚と共有している	<p>次の機能の導入を検討してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • コールパーク：転送機能を使用せずにコールを保存、および取得できます。 • コールピックアップ：別の電話機で鳴っているコールに応答できます。 • 共有回線：同僚のコールを表示、またはそのコールに参加できます。 • Cisco エクステンションモビリティ：共有の Cisco IP Phone に自分の電話番号およびユーザプロファイルを適用できます。 	<p>これらの機能については、システム管理者にお問い合わせください。また、次の説明を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • P. 35 の「応用的なコール処理」 • P. 37 の「共有回線の使用」 • 『Web での Cisco IP Phone のカスタマイズ』の「エクステンションモビリティサービスの使用方法」の項
頻繁にコールに応答する、または他の人の代理でコールを処理する	電話機への自動応答機能の設定をシステム管理者に依頼します。	P. 45 の「ヘッドセットまたはスピーカフォン使用時の自動応答」を参照してください。
ビデオコールを発信する必要がある	Cisco VT Advantage の使用を検討してください。これを使用することにより、Cisco IP Phone、パーソナルコンピュータ、および外部ビデオカメラを使用して、ビデオコールを発信できるようになります。	詳細についてはシステム管理者にお問い合わせください。また、『Cisco VT Advantage クイックスタートガイド』および『Cisco VT Advantage ユーザガイド』を参照してください。
共有の Cisco IP Phone に自分の電話番号と設定を一時的に適用する	Cisco エクステンションモビリティサービスについて、システム管理者にお問い合わせください。	『Web での Cisco IP Phone のカスタマイズ』の「エクステンションモビリティサービスの使用方法」の項を参照してください。

電話機のトラブルシューティング

この項では、Cisco IP Phone と電話機のコールに関する情報へのアクセス方法について説明します。この情報は、システム管理者または技術者が電話機に関する問題を診断するのに役立ちます。

目的	操作
ネットワーク設定データにアクセスする	 > [ネットワークの設定] を選択し、表示するネットワーク設定の項目を選択します。
ステータス データにアクセスする	 > [ステータス] を選択し、表示するステータスの項目を選択します。
電話機のモデル情報にアクセスする	 > [モデル情報] を選択します。



(注)  が反応しない場合、システム管理者が電話機でこのボタンを無効に設定している可能性があります。詳細については、システム管理者にお問い合わせください。

Quality Reporting Tool の使用

パフォーマンスに関する問題をトラブルシューティングするため、システム管理者によって一時的に Cisco IP Phone に Quality Reporting Tool (QRT) が設定される場合があります。電話機で QRT が有効になっている場合、**[品質]** ソフトキーを使用して、問題のある電話機のコールに関する情報をシステム管理者に送信できます (必要に応じて **[次へ]** ソフトキーを押して、**[品質]** を表示します)。

システム管理者が電話機に Quality Reporting Tool を設定した内容に応じて、**[品質]** ソフトキーを使用して、次のいずれかの処理を実行できます。

- 現在のコールのオーディオに関する問題をすぐに報告する
- カテゴリのリストから一般的な問題を選択して、原因コードを選択する

シスコ製品（ハードウェア）に関する 1 年間の限定保証規定

保証期間内にお客様が受けられるハードウェアの保証およびサービスに関して適用される特別な条件があります。シスコのソフトウェアに適用される保証およびライセンス契約書を含む正式な保証書は、Cisco.com から入手できます。次の手順を実行して、Cisco.com から *Cisco Information Packet* および保証書とライセンス契約書にアクセスし、これらをダウンロードしてください。

1. ブラウザを起動し、次の URL に進みます。

http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/es_inpkc/cetrans.htm

Warranties and License Agreements ページが表示されます。

2. *Cisco Information Packet* を表示するには、次の手順を実行します。

- a. **Information Packet Number** フィールドをクリックし、製品番号 78-5235-03A0 が選択されていることを確認します。
- b. 文書を表示する言語を選択します。
- c. **Go** をクリックします。
- d. Information Packet の Cisco Limited Warranty and Software License ページが表示されます。
- e. このページから文書をオンラインで見るとも、**PDF** アイコンをクリックして、文書を PDF (Adobe Portable Document Format) 形式でダウンロードし、印刷することもできます。



(注) PDF ファイルを表示し、印刷するには、Adobe Acrobat Reader が必要です。これは、Adobe の Web サイト <http://www.adobe.com> からダウンロードできます。

3. お手持ちの製品について、翻訳またはローカライズされた保証情報を表示するには、次の手順を実行します。

- a. Warranty Document Number フィールドに、次の製品番号を入力します。

78-10747-01C0

- b. 文書を表示する言語を選択します。

- c. **Go** をクリックします。

Cisco warranty ページが表示されます。

- d. このページから文書をオンラインで見るとも、PDF アイコンをクリックして、文書を PDF (Adobe Portable Document Format) 形式でダウンロードし、印刷することもできます。

また、Cisco Service and Support の Web サイトにアクセスして、サポートを受けることもできます。

http://www.cisco.com/public/Support_root.shtml

ハードウェア保証期間

1 年間

ハードウェアに関する交換、修理、払い戻しの手順

シスコ、またはその代理店では、Return Materials Authorization (RMA) 要求を受領してから、10 営業日以内に交換部品を出荷するように商業上合理的な努力を致します。お届け先により、実際の配達所要日数は異なります。

シスコは購入代金を払い戻すことにより一切の保証責任とさせて頂く権利を留保します。

Return Materials Authorization (RMA) 番号の入手

製品を購入されたシスコの代理店にお問い合わせください。製品を直接シスコから購入された場合は、シスコの営業担当者にお問い合わせください。

次の項目を記入して、参照用に保管してください。

製品の購入先	
購入先担当者の電話番号	
製品モデル番号	
製品シリアル番号	
メンテナンス契約番号	



Index

C

C 割り込み、「割り込み」を参照

Cisco IP Phone

接続 7

登録 8

~の Web ベースのサービス 54

~のオンライン ヘルプ 20

~の機能設定 20, 57

~の図 10

~の説明 10

~の高さの調節 8

~のマニュアル 3

ハンドセット受け台の固定 8

M

Malicious Call Identification (MCID) 使用 40

MLPP、使用 42

Q

QRT、使用 60

T

TAPS 8

Tool for Auto-Registered Phones Support 8

W

WebDialer 24

あ

アイコン、コール状態の 15

暗号化されたコール 41

安全上の警告 4

安全なコール 41

お

オーディオの問題 60

オフフック

ダイヤル 21

~の説明 16

オンフック

ダイヤル 21

~の説明 16

オンライン ヘルプ、使用 20

音量、調節 46

音量ボタン 12

か

会議コール

標準 31, 32

ミーティング	31, 33
回線	
~の説明	15
表示	14
回線ボタン	11
き	
キーパッド	
~でテキストを入力	19
~の説明	13
機能タブ	14
機能の Availability	20, 57
機能ボタン	
サービス	12
設定	12
ディレクトリ	12
ヘルプ	12
メッセージ	12
機能メニュー	19
共有回線	
およびリモートで使用中のアイコン	37
~の最大コール数	38
~の説明	37
プライバシーでの	39
割り込みでの	38
共有回線のリモートで使用中のアイコン	37
く	
グループのコールピックアップ	36

け	
警告、安全上の	4
こ	
コール	
安全な	41
応答	26
回線ごとの最大数	15, 38
回線と比較	15
終了	27
選択	17
転送	29, 30
~に関する問題を報告	60
~のアイコン	15
~の会議機能	31
~の複数の参加者	31
パーク	35
発信	21
表示	14, 17
複数を処理	17
保存と取得	35
保留と復帰	28
ミュート	28
優先順位付け	42
呼び出し中にリダイレクト	26, 36
コール アクティビティ領域、表示	14
コール パーク	35
コール ピックアップ	36
コール処理、応用的な	35
コール処理、基本的な	21
コール待機	26
コール転送	30

- コールの切り替え 17
- コールの終了のオプション 27
- コールの選択 17
- コールの転送のオプション 30
- コールの発信のオプション 21
- コールの優先順位付け 42
- コールバック 24
- コールへの応答 26
- 個人アドレス帳 (PAB)
 - ～からダイヤル 24
 - ～への登録 56
- 固定短縮ダイヤル機能 49

- さ

- サービスへの登録 56
- サービスボタン 12

- し

- 自動応答 45
- 自動ダイヤル 21
- 社内ディレクトリ
 - 電話機で使用 23
 - ～の Web ページからダイヤル 24

- す

- ステータス データ、検索 59
- ステータス行、表示 14
- スピーカフォン
 - 音量 46
 - ～でコールに応答 26
 - ～でコールを発信 22

- ～のボタン 12
- モード 44
- ～を使用して切断 27

- せ

- 切断のオプション 27
- 設置、Cisco IP Phone 7
- 設定、カスタマイズ 46
- 設定ボタン 12

- そ

- ソフトキーボタン
 - ～の説明 13
 - ～のラベル 14

- た

- ダイヤルのオプション 21
- タッチスクリーン
 - 明るくする 2
 - クリーニング 2
 - 言語の変更 48
 - 項目の選択 2, 18
 - コントラストの調節 48
 - ～の機能 14
 - 無効化と有効化 2
- 短縮ダイヤル
 - 使用 22
 - 設定 49
 - ～のボタン 11
 - ラベル 14

ち

着信履歴のレコード 52

て

ディスプレイボタン 2, 12

ディレクトリ

電話機で使用 23, 52

~の Web ページからダイヤル 24

ディレクトリボタン 12

テキスト、電話機で入力 19

転送のオプション 29

電話回線

~の説明 15

~のボタン 11

表示 14

電話タブ 14

と

トラブルシューティング 59

な

内線番号、表示 14

ナビゲーションボタン 13

に

認証されたコール 41

ね

ネットワーク設定データ、検索 59

は

発信履歴のレコード 52

ハンドセット

受け台に固定 8

音量 46

使用 44

ライトストリップ 13

ふ

ファースト ダイヤル サービス

~への登録 56

~を使用してダイヤル 24

複数のコール、処理 17

不在履歴のレコード 52

不審なコール、トレース 40

復帰、使用 28

フットスタンド

調節 8

~のボタン 12

プライバシー

および共有回線 37

使用 39

プレダイヤル 16, 21

プログラマブルボタン

~の説明 11

~のラベル 14

へ

ヘッドセット

- 音量 46
- ～でコールに応答 26
- ～でコールを発信 24
- ～のボタン 12
- モード 44
- ～を使用して切断 27

ヘッドセットの性能、一般的な 9

ヘルプ、使用 20

ヘルプボタン 12

ほ

ボイス メッセージ サービス 51

ボイス メッセージのインジケータ 51

ボタン、識別 10

保留

- ～およびコールの切り替え 17
- および転送 29
- 使用 28

ま

マニュアル、アクセス 3

み

ミーティング会議 31, 33

ミュート、使用 28

ミュートボタン 12

め

メッセージ

- ～のインジケータ 47, 51
- ～を聞く 51

メッセージボタン 12

メニュー、使用 19

ゆ

ユーザ オプション Web ページ

アクセス 54

および電話機サービス 56

よ

呼出音

- 音量 46
- カスタマイズ 47
- ～のインジケータ 13

り

リダイヤル 22

履歴

- ～からダイヤル 21
- 削除 52
- ～で表示してダイヤル 52

わ

割り込み

- および共有回線 37
- およびプライバシー 39

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

Cisco Systems has more than 200 offices in the following countries. Addresses, phone numbers, and fax numbers are listed on the Cisco Website at www.cisco.com/go/offices

Argentina • Australia • Austria • Belgium • Brazil • Bulgaria • Canada • Chile • China PRC • Colombia • Costa Rica • Croatia • Cyprus • Czech Republic • Denmark • Dubai, UAE • Finland • France • Germany • Greece • Hong Kong SAR • Hungary • India • Indonesia • Ireland • Israel • Italy • Japan • Korea • Luxembourg • Malaysia • Mexico • The Netherlands • New Zealand • Norway • Peru • Philippines • Poland • Portugal • Puerto Rico • Romania • Russia • Saudi Arabia • Scotland • Singapore • Slovakia • Slovenia • South Africa • Spain • Sweden • Switzerland • Taiwan • Thailand • Turkey • Ukraine • United Kingdom • United States • Venezuela • Vietnam • Zimbabwe

CCSP, CCVP, Cisco Square Bridge のロゴ、Follow Me Browsing、および StackWise は、Cisco Systems, Inc. の商標です。Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn、および iQuick Study は、Cisco Systems, Inc. のサービスマークです。Access Registrar, Aironet, ASIST, BPX, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, Cisco, Cisco Certified Internetwork Expert のロゴ、Cisco IOS, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, Cisco Systems のロゴ、Cisco Unity, Empowering the Internet Generation, Enterprise/Solver, EtherChannel, EtherFast, EtherSwitch, Fast Step, FormShare, GigaDrive, GigaStack, HomeLink, Internet Quotient, IOS, IP/TV, iQ Expertise, iQ のロゴ、iQ Net Readiness Scorecard, LightStream, Linksys, MeetingPlace, MGX, Networkers のロゴ、Networking Academy, Network Registrar, Packet, PIX, Post-Routing, Pre-Routing, ProConnect, RateMUX, ScriptShare, SlideCast, SMARTnet, StrataView Plus, TeleRouter, The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient、および TransPath は、米国および一部の国における Cisco Systems, Inc. とその関連会社の登録商標です。

このマニュアルまたは Web サイトで言及されているその他の商標はすべて、それぞれの所有者のもので、「パートナー」という語の使用は、シスコと他社の提携関係を意味するものではありません。(0502R)

Copyright © 2005, Cisco Systems, Inc.
All rights reserved.

お問い合わせは、購入された各代理店へご連絡ください。



Java ロゴは、米国または一部の国における Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。



シスコシステムズ株式会社

URL:<http://www.cisco.com/jp/>

問合せ URL:<http://www.cisco.com/jp/service/contactcenter/>

〒 107-0052 東京都港区赤坂 2-14-27 国際新赤坂ビル東館

TEL.03-5549-6500 FAX.03-5549-6501